

Tankenmaru
System

SHIMANO

ForceMaster 300DH

取扱説明書

このたびは、シマノ ForceMaster 300DHをお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みいただき、リール同様大切に保存していただきますようお願い申し上げます。

安全上のご注意	2	糸巻学習後の手順	36
特長	8	色々なテクニック	38
探見丸システムについて	10	0 (ゼロ) セットの設定	37
デジタルカウンターの各部の名称	11	高切れの補正	41
SET(設定) ボタンの操作 (チョイ巻のスピードと探見丸子機とアクセスするためのリール ID ナンバーの表示)	12	S A-RB	42
各部の名称	16	船べり自動停止	42
電源とケーブルについて	18	アラーム (船べり)	43
学習方法	20	2通りの巻き上げ方・楽楽モードと速度一定モード	44
学習モード一覧	21	糸巻学習補正	46
学習方法 1. 簡単・便利な NEW SLS III PE ライン学習 (E1)	22	探見丸システム接続時の機能一覧	48
学習方法 2. 簡単・便利な NEW SLS III ナイロン・フロロ学習 (E2)	24	お取り扱い上の注意	50
学習方法 3. 簡単・便利な NEW SLS III 下巻き学習 (E3)	26	仕様	55
学習方法 4. 従来の SLS II PE ライン学習 (L1)	30	故障かな?と思われたときは	56
学習方法 5. 従来の SLS II 下巻き学習 (L2)	32	製品のお問い合わせ・アフターサービスのご案内	58
		サービスネット	59

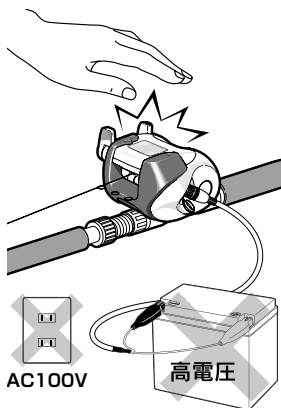
ご使用前に必ずお読みください。

警告



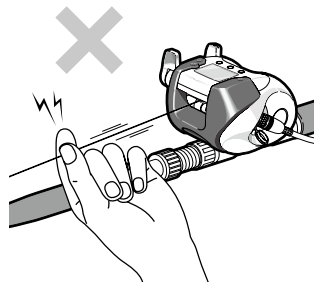
高温注意

- バッテリー、船電源の所定電圧（DC 12～14.8ボルト）以外を使用しないでください。所定の電圧以外を使用すると、電動リールが発熱し、カウンター部の電子部品の破損や、手を火傷する恐れがあります。
- 家庭用交流電源につながらないでください。回路が破損し発火発煙の恐れがあります。
- 電源コネクターやワニ口クリップに異常な発熱があった場合は、使用中を中止してください。



巻き込み注意

- 糸が勢いよく出ている時、又は、糸を巻いている時に糸を掴んだりしないでください。糸で指を切ったり切断する恐れがあります。



警告



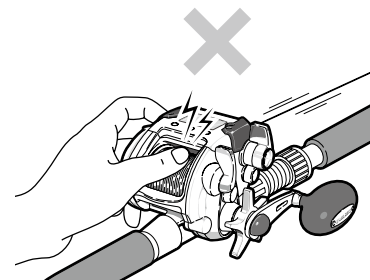
警告

- 電動リールのブレーカーが何度も作動するような場合は、対象魚/シカケの負荷に対して電動リールの仕様が適合していないと考えられます。そのままご使用になられますと、モーターやカウンターユニットが異常な発熱を起こし、焼損する場合があります。この場合は電動リールの番手を上げてご使用ください。





回転物注意

- 指を本体とスプール等の回転部に差し込まないでください。指を怪我したり、切断する恐れがあります。



警告

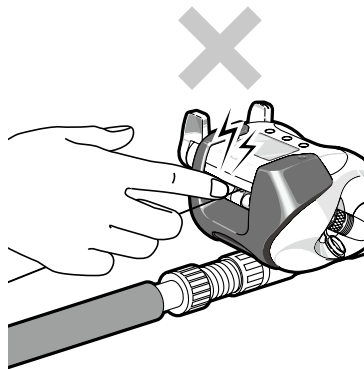
- 船電源、鉛バッテリー等をご使用になる場合は低電圧でご使用にならないようお願いします。デジタルカウンター表示部にバッテリーマーク（または）が点灯、点滅している状態で、高負荷巻き上げ（大電流が流れる）を行いますと、デジタルカウンター内部の電子部品が破損し、レンズが飛び出る場合があります。

警告



指をはさまれない よう注意

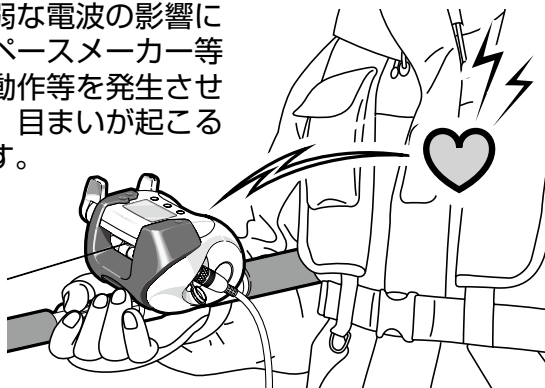
- 糸をリードするレベルワインドの所に指を近づけて、釣りをしないでください。指をはさまれて、怪我をする恐れがあります。指をはさんだ場合は電源をOFFにし、電動リールを解体してください。
- ハンドルとボディの間に手をはさむと、けがをする恐れがあります。



- 電動リールの微弱な電波の影響により、補聴器・ペースメーカー等の医療機器に誤動作等を発生させて使用者に動悸、目まいが起こる場合がございます。



警告

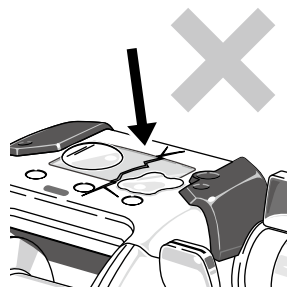


警告



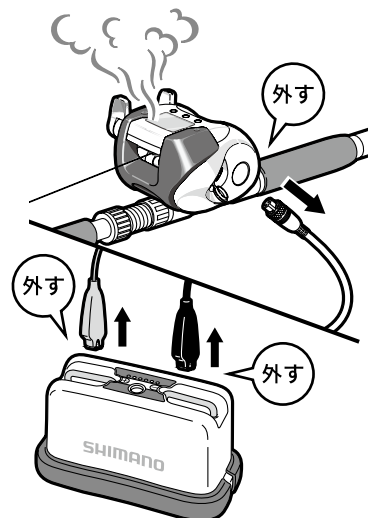
警告

- カウンターレンズ内側に水滴や曇りが見られた場合は直ぐにケーブルを外してください。そのまま使い続けると、誤動作し穂先を折ったり、破片で怪我をする恐れがあります。
- 電動カウンターのレンズやケースにヒビ割れ、クラックがある場合は使用を中止してください。水が内部に侵入するとショートして回路が破損し、モーター制御が出来なく恐れがあります。



警告

- 電動リールやカウンター表示部から焦げ付いた匂いや煙、異常な発熱が出た場合は直ぐに使用を中止してください。そのまま使い続けると発火発煙の恐れがあります。
- 巻き上げが止まらない場合は直ちに電源コネクターを外すか、バッテリーからワニ口クリップを外してください。

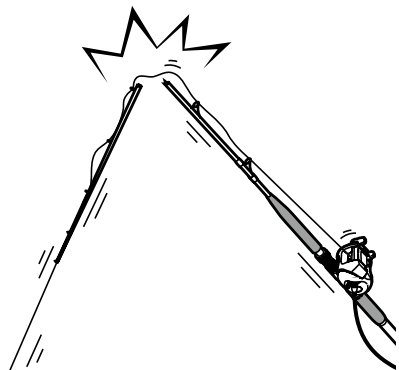
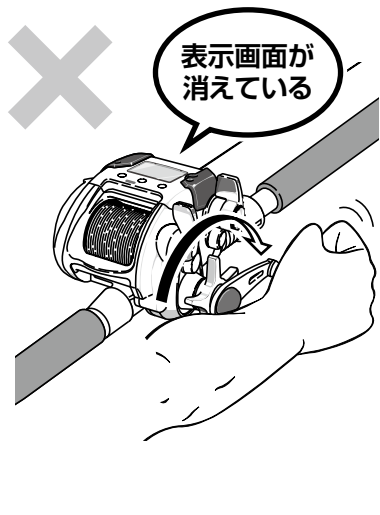


⚠ 注意



注意

- 電動リールをご使用中、表示画面が消えた時にリールのハンドルを使用し巻き上げると、正常にラインのカウントが出来ません。（※ラインとカウント表示に誤差が発生します。）そして表示画面が復帰後、電動リールのモーターで巻き上げると船べり停止が出来ず、仕掛け巻き込みの原因となります。場合によっては穂先を破損する可能性がありますので、表示画面が消えた場合はその原因を取り除き、表示画面が復帰した後でライン回収を行ってください。



⚠ 注意



注意

- メッキや塗装等の表面処理が剥がれたり、強い衝撃等により素材の表面が鋭利になった場合には、その部分に触れないでください。けがをする恐れがあります。



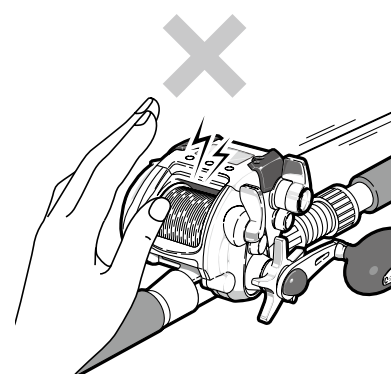
注意

- バッテリーマーク（**B**または $\left[\text{I} \right]$ ）が点灯、点滅している場合はバッテリー電圧が低下しており、電動リールの性能を十分に発揮できないだけでなく、モーター、カウンタユニットに負荷が加わり故障の原因となる場合がありますので、使用を中止し十分に充電したバッテリーに交換してご使用ください。



回転物注意

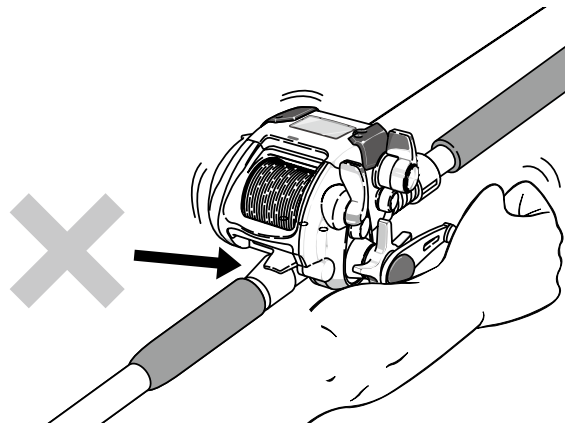
- 回転しているスプールに触れないでください。けがをする恐れがあります。



⚠ 注意

⚠ 注意

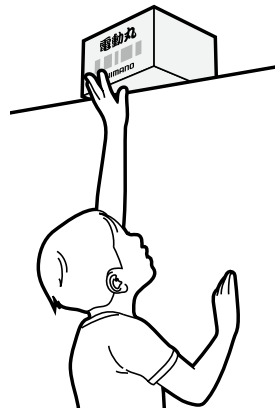
- 電動リールはリールシートにしっかり固定してご使用ください。ガタ付きがある場合や固定出来ない場合は、ご使用を控えてください。釣行中に外れたりすると、怪我を負う恐れがあります。



⚠ 注意

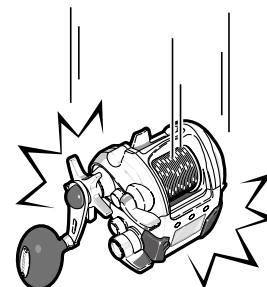
⚠ 注意

- 幼児の手の届く所では、保管、使用しないでください。



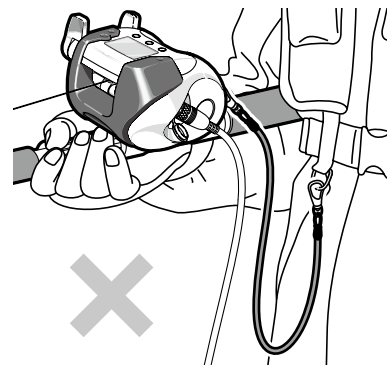
⚠ 注意

- 落下等の衝撃によりカウンターが破損し、誤動作する恐れがあります。強い衝撃が加わらないようにしてください。



⚠ 注意

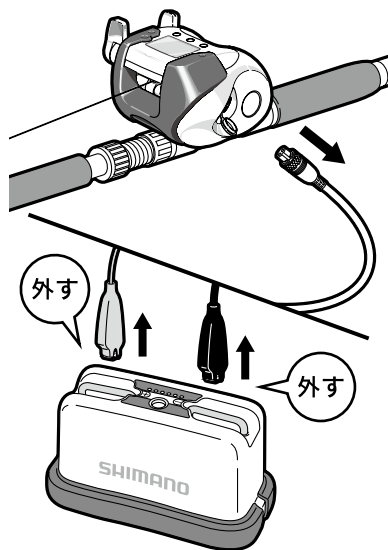
- ケーブル等を身体に巻きつけたりしないでください。魚のヒキによっては海に落ちる可能性があります。



⚠ 注意

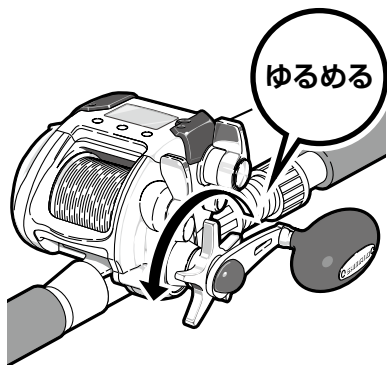
⚠ 注意

- 釣行後に電動リールをメンテナンスをする場合は、必ずケーブルをバッテリーから外して行ってください。急にスプールが回りだしたりすると、怪我や電動リールの破損の恐れがあります。



⚠ 注意

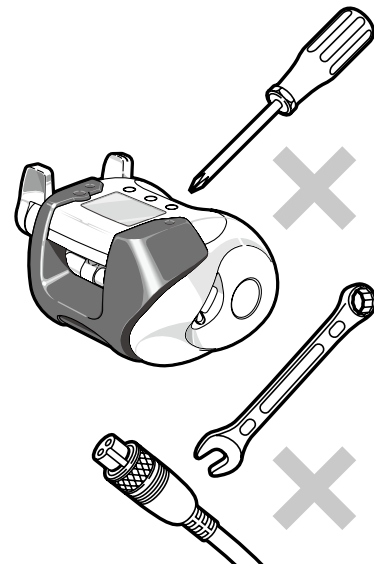
- 電源をつなぐ前に、必ずドラグを十分にゆるめてから接続してください。故障時にモーターが回り放しになり、仕掛けを巻き込み、竿を破損する恐れがあります。



⚠ 注意

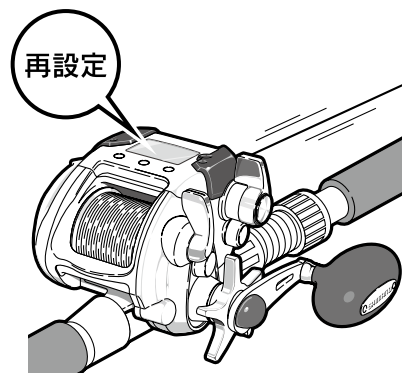
⊘ 分解禁止

- 本体を改造したりしないでください。電動リールの性能を損ない、安全機能が働かなくなり怪我をしたりする恐れがあります。
- ケーブルの改造はしないでください。電動リールの性能を損なったり、発熱や発火する恐れがあります。



⚠ 注意

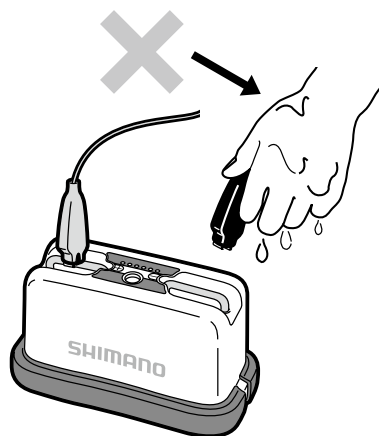
- 船べり停止位置は巻き上げ張力等によってズれる事があります。停止位置がズれてきた場合は「0セット」して補正してください。停止位置がズれると竿の穂先を折ったりする恐れがあります。



⚠ 注意

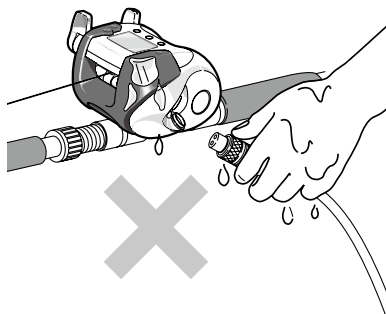
⚠ 注意

- 濡れた手でケーブルのフニクリップの金属部やバッテリー、船電源の端子を触らないでください。感電する恐れがあります。



⚠ 注意

- ケーブルを電動リールに接続する時は、端子部が濡れていない事を確認して接続してください。濡れていると海水によりショートと発火、発煙し火傷する恐れがあります。



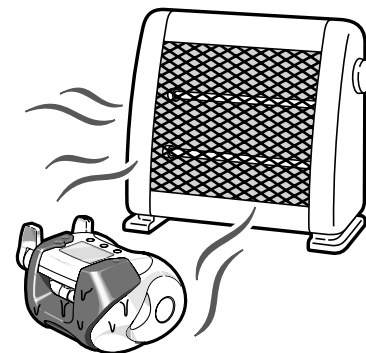
注意

- 根掛かりした時は竿をあおらず、糸をロッドキーパーや、しっかりとした船べりに巻きつけ、船で糸を切るようにしてください。

⚠ 注意

⚠ 注意

- メンテナンス後にドライヤーや発熱器具を使っての乾燥は止めてください。樹脂が変形したりする恐れがあります。



モーターの誤作動についてのご注意

- 落下等の強い衝撃により表示部に破損やクラックが起こり内部に海水が浸入した場合、モーター制御が出来なくなる事があります。
突然、糸を巻き上げる等の誤作動により怪我をする可能性がありますので、表示部のクラックや破損を発見した場合は、ケーブルを抜いて即座に使用を中止し、お買い上げの販売店へ現品をお預け願います。またお近くにシマノ商品取扱店がない場合は、最寄の営業所へお問合せ下さい。
- 本電動リールの使用電源保証範囲はDC 12～14.8Vまでです。これより大きな電源や家庭用交流電源等を使用した場合、表示部の電子回路が破損しモーター制御が出来なくなります。
また、発煙発火の可能性もありますので、必ず使用電源をご確認の上、使用してください。



巻き上げ操作を親指1本で可能にしたダイヤル方式…

スマートダイヤル

☞ P 16 参照



頻繁な底取り操作も親指一本で自由自在。リールを握ったままの操作を可能にします…

クイックラッチ搭載

☞ P 17 参照



ボタンを押している間、電動で巻き上げることができます…

チョイ巻

☞ P 11・12 参照



コマセ振りや仕掛け回収のタイミングを計る目安に…

棚タイマー

☞ P 11 参照

仕掛けが目標の棚に到達してからの経過時間を表示します。



糸落のスピードを安定させ、釣果UPに…

糸落スピードの目安を表示

☞ P 11 参照



極細PEライン対応…

ラビリンス構造ボディ

ボディとスプールのすき間の内部を複雑な凹凸にすることで、極細PEラインのトラブルを防ぎます。



スローな巻き上げをより細かく調整することができる…

超微変速制御



糸巻量に影響せず、電動で等速巻きを実現…

電動等速巻き制御



ハンドル巻き上げ時のスピードを表示…

ハンドルスピード表示

☞ P 11 参照

電動の31段階に設定されている巻き上げスピードとリンクしています。



モーター&クラッチ連動機能

モーターで電動巻き上げをしている時にクラッチをOFFにすると、自動でモーターもOFFになる機能。フール中のモーター音がなくなり、繊細な操作に集中できます。また、クラッチをONにすると再び電動巻き上げを開始します。



錆、塩噛みに強いボールベアリング… シールドタイプ S A-RB内蔵

☞ P 42 参照

従来のA-RB(アンチラストベアリング)の側面に防錆素材でシーリングし、塩分の浸入を減少させたS A-RBを適材適所に配置したことにより更なるスプールフリーが実現! A-RB処理による防錆性はもちろん、ベアリング内部に浸入した塩分の結晶化による"塩噛み"をも減少させています。



2種類の巻き上げ方法を状況に応じて選択可能な…

「楽楽モード」「速度一定モード」切り替え

☞ P 11・44 ~ 45 参照

巻き上げパワーが一定の「楽楽モード」と、巻き上げスピードが一定の「速度一定モード」の切り替えで状況に応じた巻き上げが可能です。



巻き上げフィーリング抜群の…

スーパーストッパーII

☞ P 16 参照

アソビがないのでシャクリに威力を発揮します。



このクラストップレベルの…

軽量コンパクト化を実現

☞ P 16 参照



さらに磨きのかかった…

ハイスピード&ハイパワーを装備

☞ P 16 参照



軽いオモリでも底取り簡単…

スーパーフリースプール

☞ P 42 参照

クラッチをOFFにするとスプールが完全フリーとなり、軽いオモリでの底取りも簡単になります。

ご注意：クラッチをOFFにして糸を出す時は、レベルウィンドは運動しません。ドラッグが滑っている時は、レベルウィンドがスプールと同期しない場合があります。



より正確に何回でも狙った水深にシカケを落とす…

0(ゼロ)セット

P39～40参照

シカケが水面にあるときに0メートルとして設定できますから、狙った水深に、より正確にシカケを投入できます。



竿を立てたときにシカケが手元に戻ってくる…

船べり自動停止

P42参照

船べり停止位置が自動的に設定されますから、船べり停止後、竿を立てるだけでシカケが手元に戻ります。



高切れをワンタッチで修正する…

高切れ補正

P41参照

高切れした場合は、再度シカケを結びシカケを水面に合わせて0セットボタンを押してください。カウンターが修正されます。



プログラマ不要の新SLS方式…

SLSIII(シマノ・ラインプログラム・システム3)搭載

P22～35参照

シカケが水面にあるときに0メートルとして設定できますから、狙った水深に、より正確にシカケを投入できます。



カウンターと道糸のズレを釣り場で補正…

糸巻学習補正

P46～47参照



探見丸子機と無線通信OK!…

無線通信モジュール(ZigBee)内蔵

P14～15参照

デジタルカウンター内部に無線通信モジュールが内蔵されていますので、通信ケーブルを必要とせず、探見丸子機(2004年探見丸(白黒液晶)を除く)と無線通信できます。
※リール固有のIDナンバーを所有

探見丸システムを組み合わせれば、さらに便利に!



Tankenmaru System

船べりで魚探が見える!

探見丸システム対応

P10・48～49参照

探見丸と組み合わせることで双方向に通信が可能となり、使い勝手が広がります。

釣技の再現がさらに便利に、詳細に設定可能…

テクニックマスター

P48参照



釣人の感性に忠実な「さそい動作」をリールが再現するシマノテクニックマスター(TM)が、探見丸で便利に操作できます。あらかじめインプットされた代表的なさそいパターンの使用や、さそい幅の指定などが可能です。
また、操作を覚える必要はなく、ディスプレイの説明にそって操作をすれば簡単にマスターできます。

本文の説明中に次のようなマークが出てきた場合は…



ご注意：本文の説明中に出てくるカウンター内の数値・設定などは、例として表示している場合があります。全く同じ表示になるわけではありません。

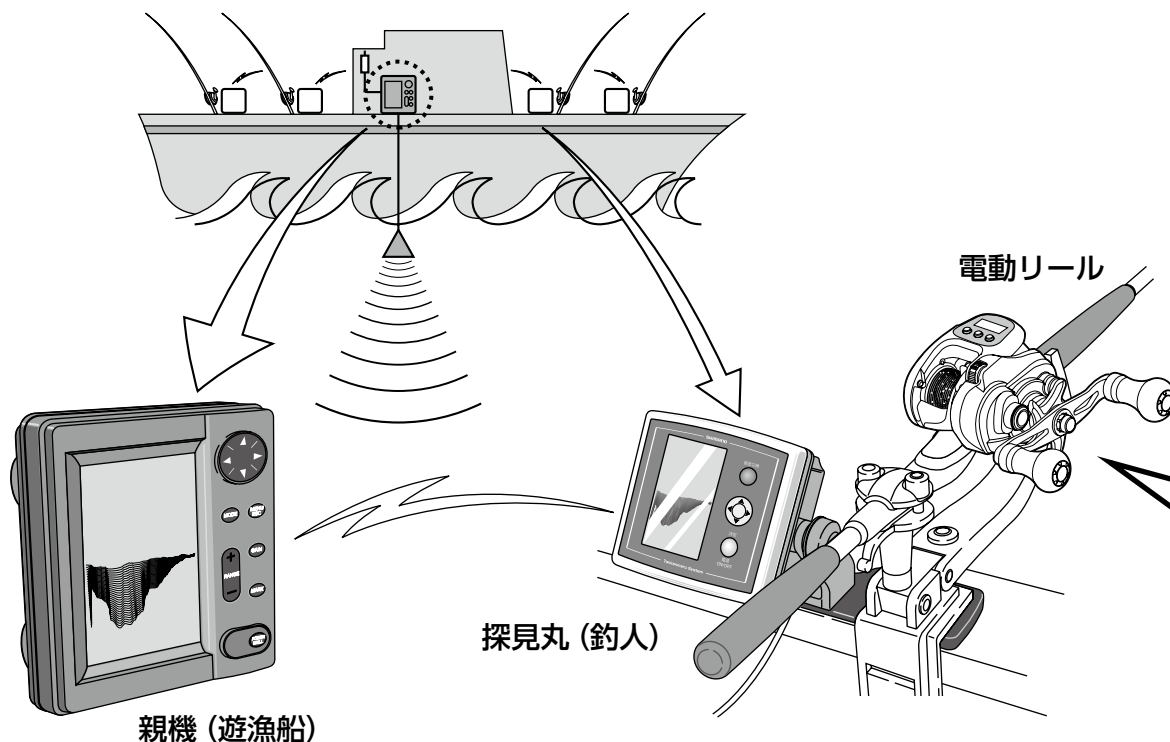


Tankenmaru

探見丸システム 親機からの魚探映像を無線でキャッチ。船べりで魚探が見える!

あらかじめ遊漁船に設置された親機魚探からの情報を探見丸がキャッチ。釣座に居ながらにして魚探の映像を見ることができ、画期的なシステムです。[探見丸対応遊漁船につきましては、弊社ホームページ、パンフレット等をご覧ください。]

※ご注意 探見丸に映る映像はご自身の位置ではなく、親機送受波器の位置映像です。



さらに探見丸システム対応電動リールと組み合わせることで、双方向に通信が可能となり、使い勝手が広がります。

1. 電動リールの操作が探見丸で可能に
[さそい、さそい幅、楽速切替 etc.]
2. 電動リールからのデータを探見丸で表示
[リール水深、棚タイマーetc.]
3. 双方のデータを組み合わせてより便利な情報を表示
[シカケ軌跡、さそい幅etc.]

※この電動リールでは棚停止・オートシャクリの操作はできません。電動リールの機種によって使える機能は異なります。

この電動リールは探見丸システム対応機種です。

探見丸システムを組み合わせた場合の機能については 48 ~ 49 ページをご覧ください。

デジタルカウンターの各部の名称

◎バッテリー不足のお知らせ

バッテリーが不足した場合に**B**が点灯します。

◎スマートダイヤルの設定表示

スマートダイヤルの操作時に巻き上げパワーまたはスピードを表示します。
※「0~Hi」の31段階

◎棚タイマー

仕掛けが目標の棚まで到達してからの経過時間を表示します。
※0~59秒は1秒単位
1~99分は1分単位で表示します。
100分経過すると0秒に戻ります。

◎糸落スピード表示

糸落のスピードの目安を表示します。
※表示中は“()”が点滅します。

◎ハンドルスピード表示

ハンドル巻き上げ時のスピードを表示します。
※表示中は“()”が点滅します。

■PICK UP(チョイ巻)ボタン



ボタンを押している間、電動で巻き上げることができます。巻き上げの速さは「0~Hi」まで変えることができます。(初期設定は15になっています。)
※船べり停止以降は、チョイ巻を無効にしています。

■0-SET(Oセット)ボタン



Oセットします。シカケを水面に合わせてOセットしてください。
※水深表示が10.1m以上で高切れ補正します。結びなおした仕掛けは水面に合わせ高切れ補正してください。

◎現在の水深

水面からの水深を表示します。 **99.9 → 100**
*水深は10cm単位です。
(100m以上は上図のように1m単位になります。)

■SET・R/S(設定・楽/速)ボタン



押すごとに速度一定モードと楽楽モードの切り替えができます。巻き上げ中の操作も可能です。現在のモードがデジタルカウンターに表示されます。
R(楽楽モード): 緑のバックライト (「R」点灯)
S(速度一定モード): 赤のバックライト (「S」点灯)



チョイ巻スピードを設定します。チョイ巻のスピード設定はP12へ



探見丸子機と無線通信機能をONにし、リールIDナンバーを確認することができます。

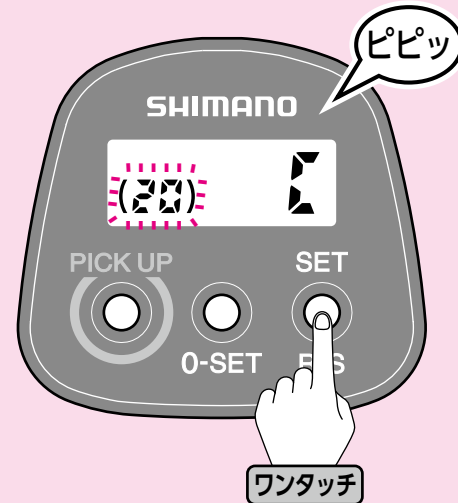
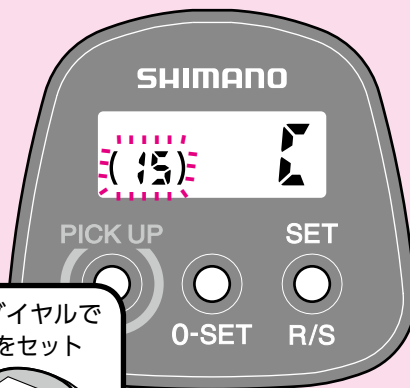
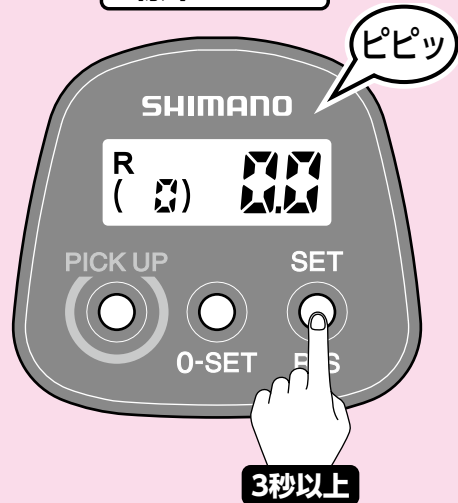
●図は説明のために液晶を全部点灯させています。

SET(設定)ボタンの操作



1 チョイ巻のスピード設定

標準モード



1 SET(設定)ボタンを3秒押すと
チョイ巻のスピードの設定モードに
入ります。
「ピピッ」のアラームが鳴ります。

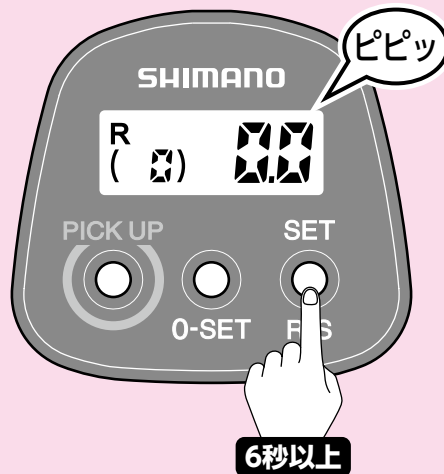
2 ダイヤルを操作して、
スピードを設定してください。
※“()”が点滅して、
右端に「C」が表示されます。
※初期設定は15です。(図は15から20
に変更した場合です。)

3 SET(設定)ボタンを押して、完了です。
「ピピッ」のアラームが鳴り、標準モード
に戻ります。



2 探見丸子機とアクセスするためのリール ID ナンバーの表示

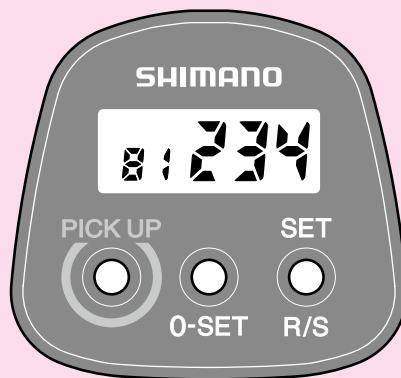
標準モード



- 1** SET(設定)ボタンを6秒以上押すと、探見丸子機との無線通信機能がONになります。
※初期設定は、無線通信機能がOFFです。

ご注意：電源をOFFされますと、無線通信機能がOFFになります。釣行ごとに、無線通信機能の設定を行ってください。

SHIMANO

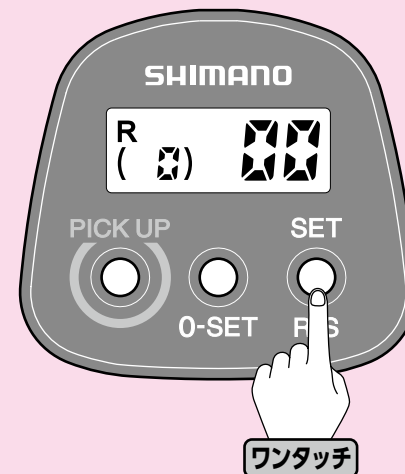


- 2** リールIDナンバーを表示します。リールIDナンバーが表示されている間、無線通信機能がONになっています。

※例えばリールIDナンバーの表示「81234」の場合、探見丸子機側には8ケタの番号「00081234」が表示されます。下5ケタ「81234」と表示されたリールIDナンバーを選択しますと、探見丸子機とアクセスすることができます。

※お間違えのないようご自身のリールIDナンバーを選択してください。

標準モード

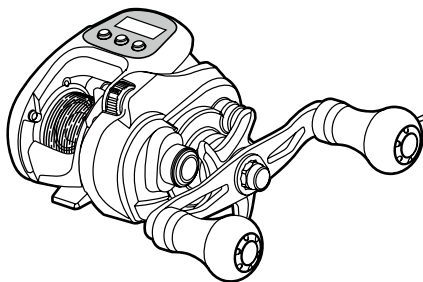


- 3** 探見丸子機とアクセスすると表示が標準モードになります。

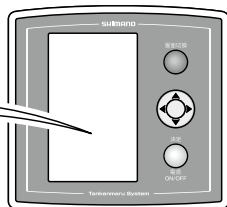
ご注意：探見丸子機と通信せず、そのまま1分間経過するか、いずれかのボタンを押すか、スプールの回転を検知すると表示が標準モードに戻り、無線通信機能がOFFになります。

電動リールと探見丸子機のアクセス操作手順

① 電動リール電源 ON



② 探見丸子機電源 ON



メニューで
リールIDナンバー
選択

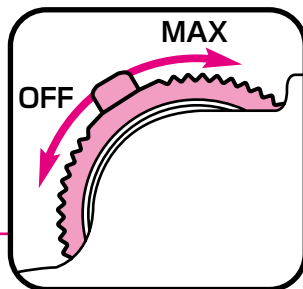
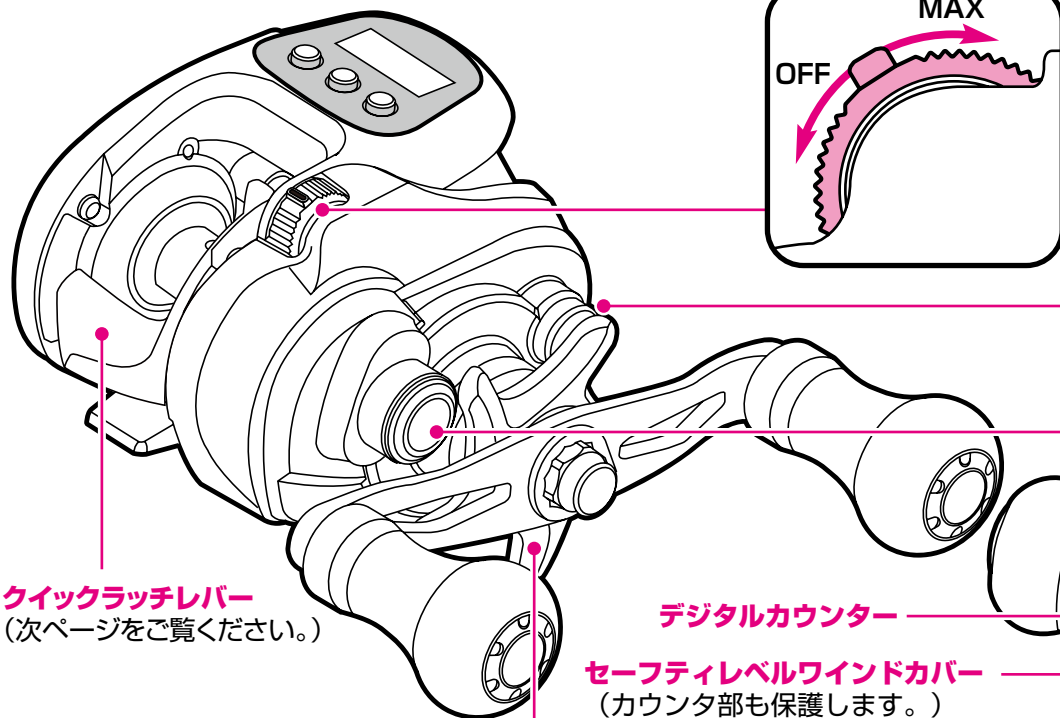
① 電動リールの電源を ON にして、無線通信機能を ON にし、リール ID ナンバーを表示させてください。

② 探見丸子機の電源を ON にし、リール固有の ID ナンバーを選択してください。これでアクセス完了です。

※ 周りに無線通信モジュール内蔵のリールもしくは、スーパーケーブル(コード) ZB25 を使用されていますと、複数の ID ナンバーが表示されますのでお間違いのない様にご自身のリール ID ナンバーを選択してください。

※ ご注意：無線での通信のため、使用状況により通信が途切れる場合がありますが、故障ではございません。

各部の名称



スマートダイヤル

巻き上げパワーまたはスピードを瞬時に調整できます。船べり停止後等で、いったん停止後の再始動時には一度OFFに戻してから始動させます。カウンター1.0m以下では安全のためダイヤルを動かしての巻き上げはできないようになっております。



ラインホルダー 糸を止めておくものです。

メカニカルブレーキノブ

スプールの回転にブレーキをかけてシカケをおろす時のバックラッシュを防止します。

クイックラッチレバー

(次ページをご覧ください。)

スタードラグ

魚が強く引いた時、ハリス切れをおこさないように糸を送り出す力を調整します。



セーフティレベルwindカバー

(カウンタ部も保護します。)

レベルwind

⚠️ ※巻き上げ時に指をはさまないよう注意してください。

電源コネクター

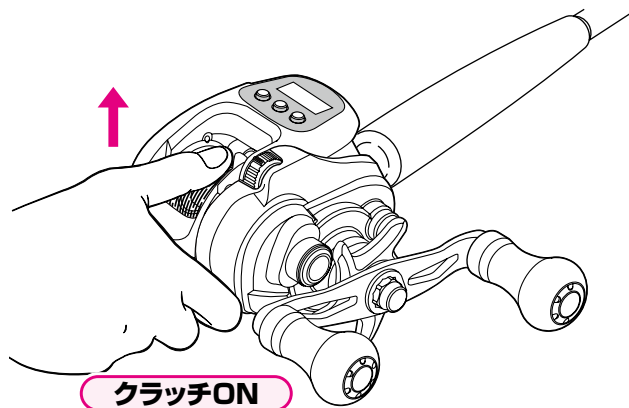
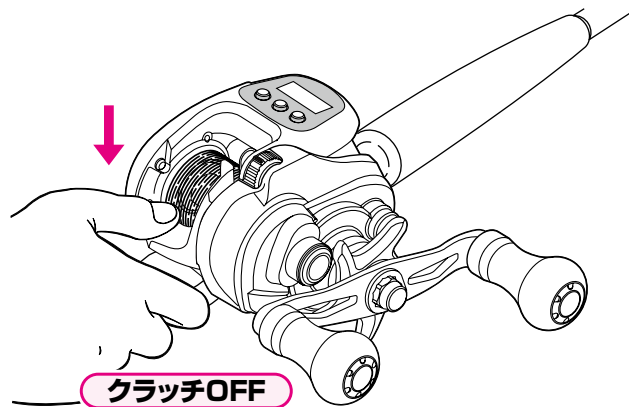
※ご使用時以外はコネクターキャップを取り付けてください。

クイックラッチ

ロッドを持った手の親指1本でクラッチのON/OFFの切替を可能にしました。

OFF：スプールをフリーにしてシカケをおろします。

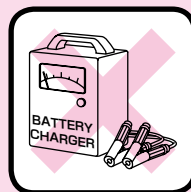
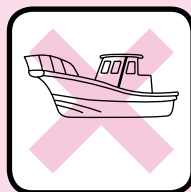
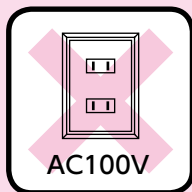
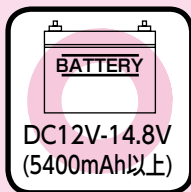
ON：シカケの巻き上げ



1 お取り扱い上の注意

電源について

電源は直流 (DC) 12Vです。公称電圧が12Vから14.8V (リチウムイオンバッテリーなど) までのものをご使用ください。指定外の電源 (たとえば家庭用の交流100V、船装備の高電圧など) ではご使用できません。バッテリーチャージャーなどは絶対に使わないでください。



- 船に備え付けの電源を利用される時は、電圧が直流 (DC) 12Vから14.8Vであることをご確認ください。(船のバッテリーをご使用になる場合は、12Vのバッテリーか、DC-DCコンバータにより24Vから12Vに変換されたものに限ります。) また、端子がサビていたり、電圧が安定していませんと、リールが正常に作動しない場合があります。
- 十分に充電したバッテリーをご使用ください。
- バッテリーは長期間使用されますと、次第に充電できる容量が少なくなります。その場合は、新しいバッテリーをお求めください。
- AC電源は絶対通電させないでください。カウンター部の故障となります。
- 他社メーカーのバッテリーには、ワニ口が正確に取り付けできない場合がございます。また、他社メーカーのバッテリーを使用されますと、バッテリーが破損する場合があります。

本製品はハイスピード、ハイパワーの高性能機種となっております。
ご使用になる際は弊社、電力丸をご使用になるようお勧めいたします。

ケーブルについて

電源との接続は、必ずシマノ純正ケーブルを用いてください。ケーブルは消耗品です。使用頻度にもよりますが、2～3年で交換することをお勧めします。

ご注意：

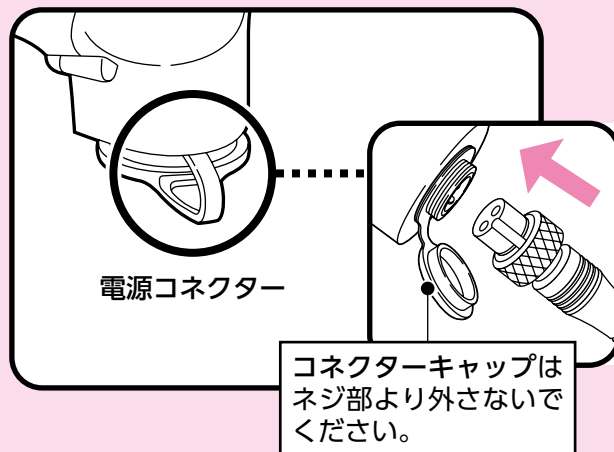
純正以外のケーブルを使用されると、リールが正常に作動しない場合があります。また、ケーブルは乱暴に扱わないでください。踏んだり、折り曲げたりすると故障の原因となります。

本製品はケーブルは2芯タイプとなっています。6芯タイプのケーブルは使用できません。

2 バッテリーとの接続方法

1 バッテリーに付属のケーブルを接続してください。
赤クリップを (+) 側に、黒クリップを (-) 側につないでください。

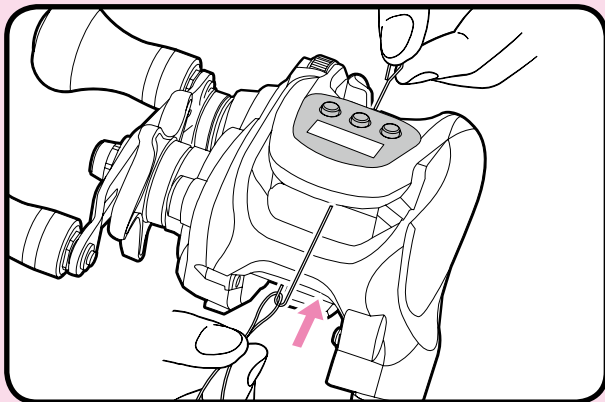
2 リールとケーブルを接続してください。
ケーブルのプラグの凹部と、リールの電源のコネクターの凸部を合わせ、奥まで差し込んで、ネジを締めてください。
※ボタンを押しながら電源を接続しないでください。
※若干のガタが出るものがありますが、ご使用上問題はありません。



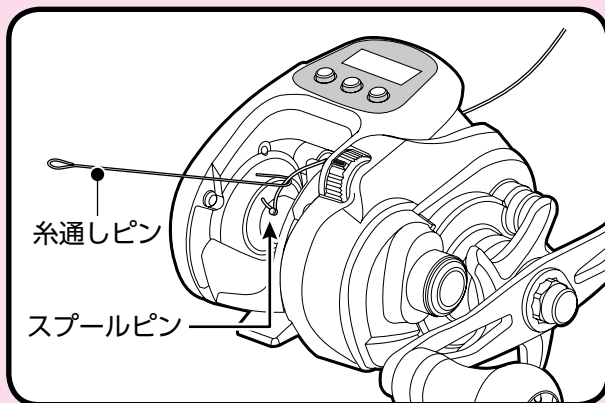
学習方法 (使用するラインの実測値をリールに記憶させます。)

糸をセットします。

- 1 糸をレベルワインドに通します。
糸を通すときは、付属の糸通しピンを使用することをおすすめします。



- 2 スプールピンに糸を結んでください。



学習方法の選択

まず次ページの操作で標準モードから学習モードに入り、使用する糸の種類に合った学習方法を選択します。

それぞれの学習方法については次項からの説明をご覧ください。

- ※電源をつないでいないとこの操作は行えません。
- ※カウント値が6 m以下で操作してください。
6.1m 以上の時はいったん0 セットしてください。

- ※標準モード (初期画面) から設定を変えられた場合、電源を OFF されましても、設定は記憶されます。

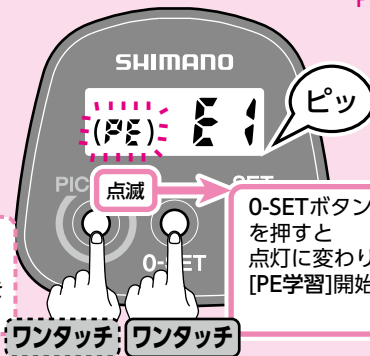
学習モード一覧

標準モード

電源 ON 時はこの状態です。
(※初期画面)



① 学習モード E1 NEW SLS III PE 学習



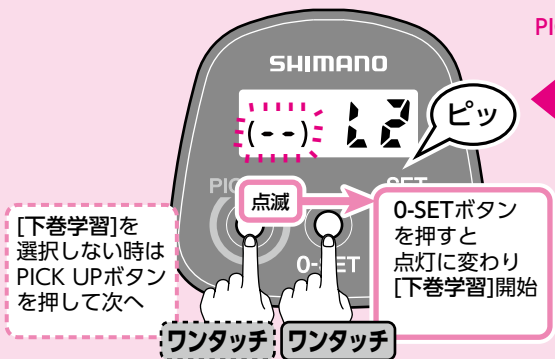
② 学習モード E2 NEW SLS III ナイロン・フロロ学習



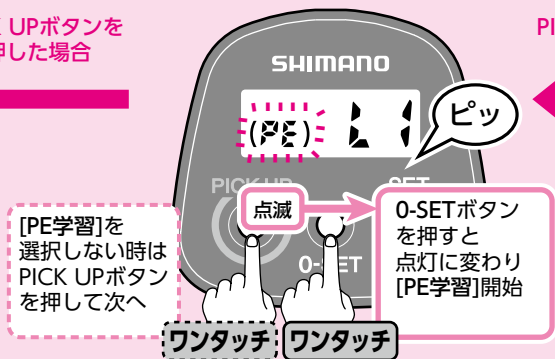
PICK UPボタンを押した場合
標準モードに戻ります。

PICK UPボタンを押した場合

⑤ 学習モード L2 従来のSLS II 下巻学習



④ 学習モード L1 従来のSLS II PE 学習



③ 学習モード E3 NEW SLS III 下巻学習

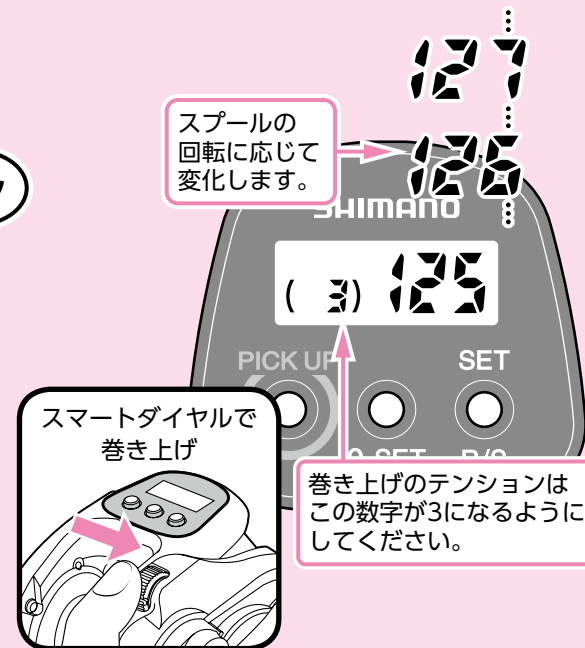
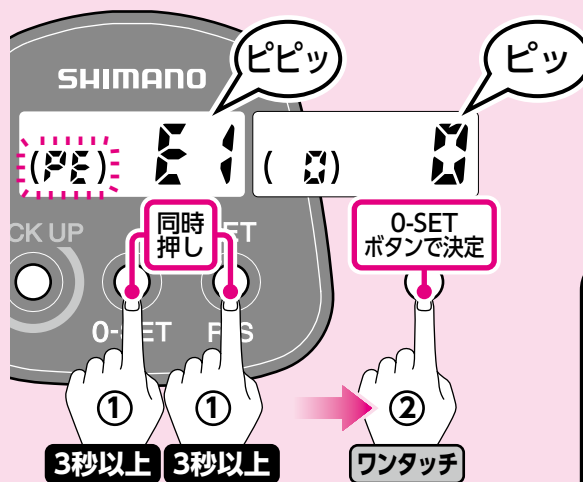
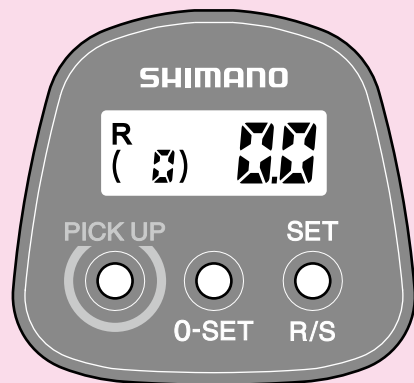


PICK UPボタンを押した場合

PICK UPボタンを押した場合



1 簡単・便利なNEW SLSⅢ 糸巻学習 PEライン学習 (E1)

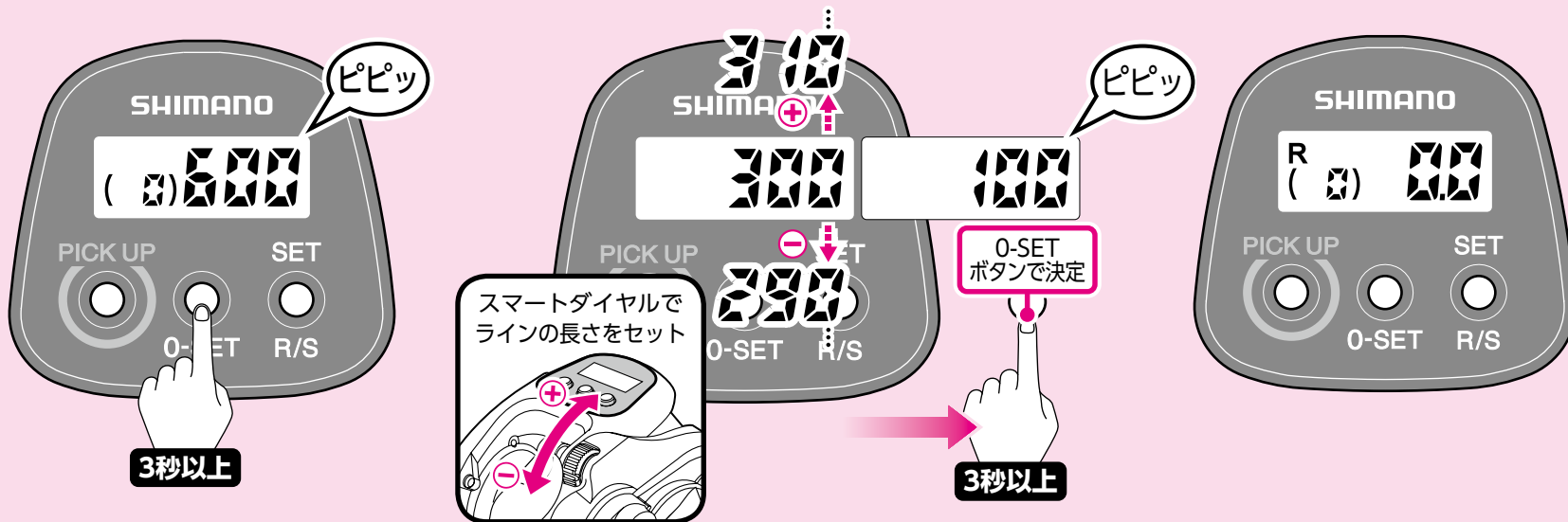


1 カウント値が6m以下で操作します。
6.1m以上の時は0セット (37～38ページ参照) しておきます。
クラッチレバーをONにしてください。
そして、電源の接続を確認してください。
デジタル表示は図のようになります。
(標準モードの状態です。)

2 **0-SET(0セット)ボタン**、**SET(設定)ボタン**を両方同時に3秒以上押しと学習モードに入ります。「PE」が点滅します。
0-SET(0セット)ボタン を押し、「E1」を決定します。
(学習モード内での学習方法の選択について、詳しくは、20～21ページ「学習方法の選択」をご参照ください。)

3 スマートダイヤルで糸を巻いてください。
スピールの回転数に比例した数字が表示されます。巻き上げのテンションは3になるようにしてください。この数字はリールが巻き上げている力(糸のテンション)を数字で表示します。数字=kgではありません。
また、楽楽モード時の数値とも異なります。スマートダイヤルでの巻き上げの場合、速度はスマートダイヤルで調節できます。巻き上げを止めるときは、スマートダイヤルを「OFF」の位置にしてください。

注意：カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合と同じ数値を示すわけではありません。



- 4** 糸を完全に巻き終えたら、**0-SET(0セット)ボタン** を3秒以上押してください。
「ピピッ」のアラームが鳴ります。

ご注意：糸を全部巻き込まないようにしてください。巻き込みますと、カウンター誤差の原因になります。

- 5** スマートダイヤルで糸の長さをセットし**0-SET(0セット)ボタン** を3秒以上押してください。
「ピピッ」のアラームが鳴ります。

※初期設定は300mです。(図は300mから100mに変更した場合です。)

※設定できる範囲は50m～990mです。

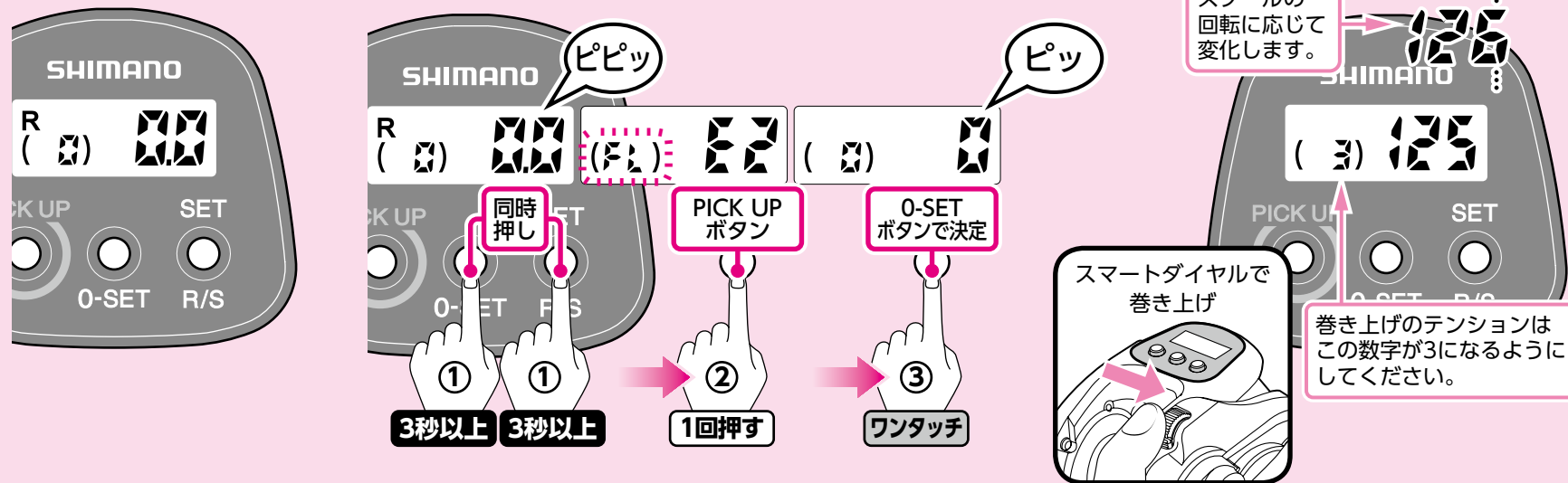
※各入力途中で**PICK UP(チョイ巻)ボタン** を誤って押してしまった場合、途中のデータはキャンセルとなります。もう一度やり直してください。

- 6** 表示が標準モードに戻り、学習は完了です。
(カウンターの数値と実際の糸の出た長さとは最大で±3%の誤差が生じる場合があります。)

※誤差とは、学習後1投目の誤差です。

※その後釣りをされていて誤差が大きいと思われる場合は、46～47ページの「糸巻学習補正」を行ってください。より正確な棚取りができます。

2 簡単・便利なNEW SLSⅢ 糸巻学習 ナイロン・フロロ学習 (E2)



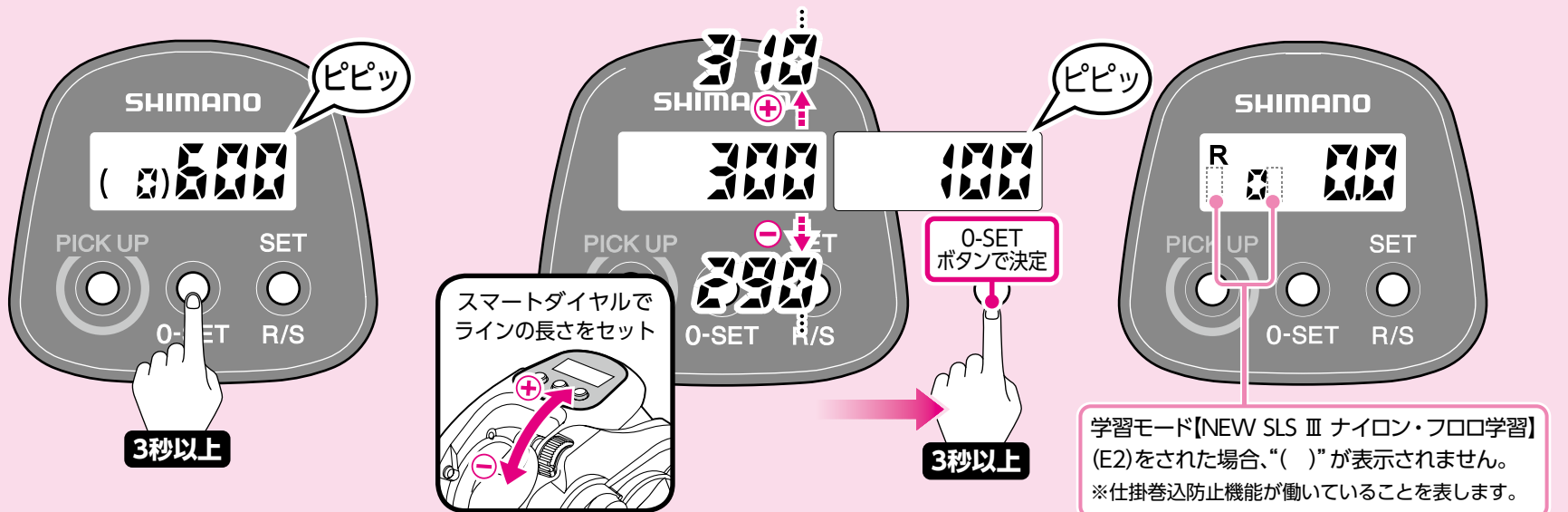
1 カウント値が6m以下で操作します。
6.1m以上の時は0セット (37～38ページ参照) しておきます。
クラッチレバーをONにしてください。
そして、電源の接続を確認してください。
デジタル表示は図のようになります。
(標準モードの状態です。)

2 **O-SET(0セット)ボタン**、**SET(設定)ボタン**を両方同時に3秒以上押すと学習モードに入ります。
次に、**PICK UP(チョイ巻)ボタン**を1回押してください。「FL」が点滅します。
O-SET(0セット)ボタンを押し、「E2」を決定します。
(学習モード内での学習方法の選択について、詳しくは20～21ページ「学習方法の選択」をご参照ください。)

3 スマートダイヤルで糸を巻いてください。
スプールの回転数に比例した数字が表示されます。巻き上げのテンションは3になるようにしてください。この数字はリールが巻き上げている力(糸のテンション)を数字で表示します。数字=kgではありません。
また、楽楽モード時の数値とも異なります。
スマートダイヤルでの巻き上げの場合、速度はスマートダイヤルで調節できます。
巻き上げを止めるときは、スマートダイヤルを「OFF」の位置にしてください。

ご注意：ナイロン・フロロを巻かれる際は、巻き上げテンションの数字が「5」以上にならないように注意してください。スプールが変形する恐れがあります。

注意：カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合と同じ数値を示すわけではありません。



- 4** 糸を完全に巻き終えたら、**O-SET(0セット)ボタン** を3秒以上押してください。「ピピッ」のアラームが鳴ります。

ご注意：糸を全部巻き込まないようにしてください。巻き込みますと、カウンター誤差の原因になります。

- 5** スマートダイヤルで糸の長さをセットし**O-SET(0セット)ボタン** を3秒以上押してください。「ピピッ」のアラームが鳴ります。

※初期設定は300mです。(図は300mから100mに変更した場合です。
 ※各入力途中で**PICK UP(チョイ巻)ボタン**を誤って押ししてしまった場合、途中のデータはキャンセルとなります。もう一度やり直してください。

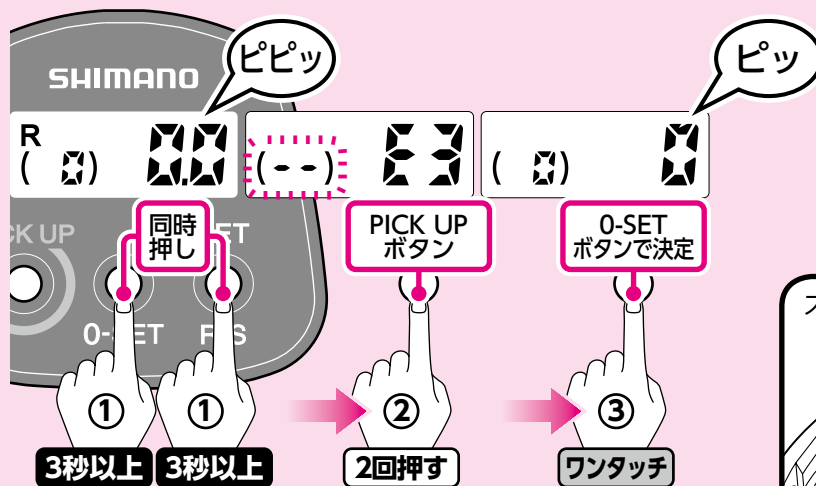
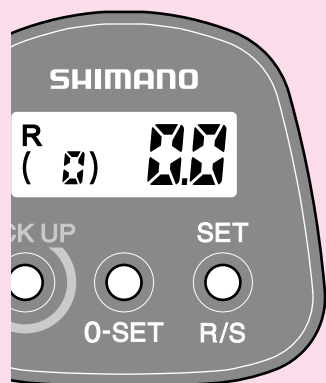
- 6** 表示が標準モードに戻り、学習は完了です。(カウンターの数値と実際の糸の出た長さとは最大で±3%の誤差が生じる場合があります。) ※誤差とは、学習後1投目の誤差です。
 ※その後釣りをされていて誤差が大きいと思われる場合は、46～47ページの「糸巻学習補正」を行ってください。より正確な棚取りができます。

学習モード【NEW SLS III ナイロン・フロロ学習】(E2)をされた場合は仕掛巻込防止機能が働きます。ナイロンやフロロのような伸びの大きい道糸を使用されますと、誤差が大きくなる恐れがあり、時には竿の穂先にシカケを巻き込んで、穂先の破損をまねく場合もあります。本プログラムは、シカケを回収している際のリールの負荷が大きいと感じた時は船べり停止を6mに設定し、負荷が軽いと感じた時は出した糸の量の10% (100m出せば10m、6m以内になるようなら6m) で船べり停止を設定します。
 ※どちらもカウンター表示での数字となるため、実際のメートル数とは異なってきます。20速以上でこの機能はONとなりますので軽負荷で20速未満で巻きますと、穂先に巻き込む場合もあります。

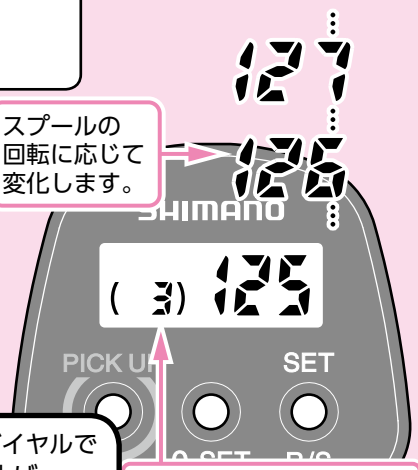
3 簡単・便利なNEW SLS III 糸巻学習 下巻き学習 (E3)

※PE0.8号200m、PE1号200mを巻かれる場合：

- ・スプールの下巻きラインを使用してください。
- ・スプールの上ライン…PE0.8号200m用
- ・スプールの下ライン…PE1号200m用



スプールの回転に応じて変化します。



巻き上げのテンションはこの数字が3になるようにしてください。

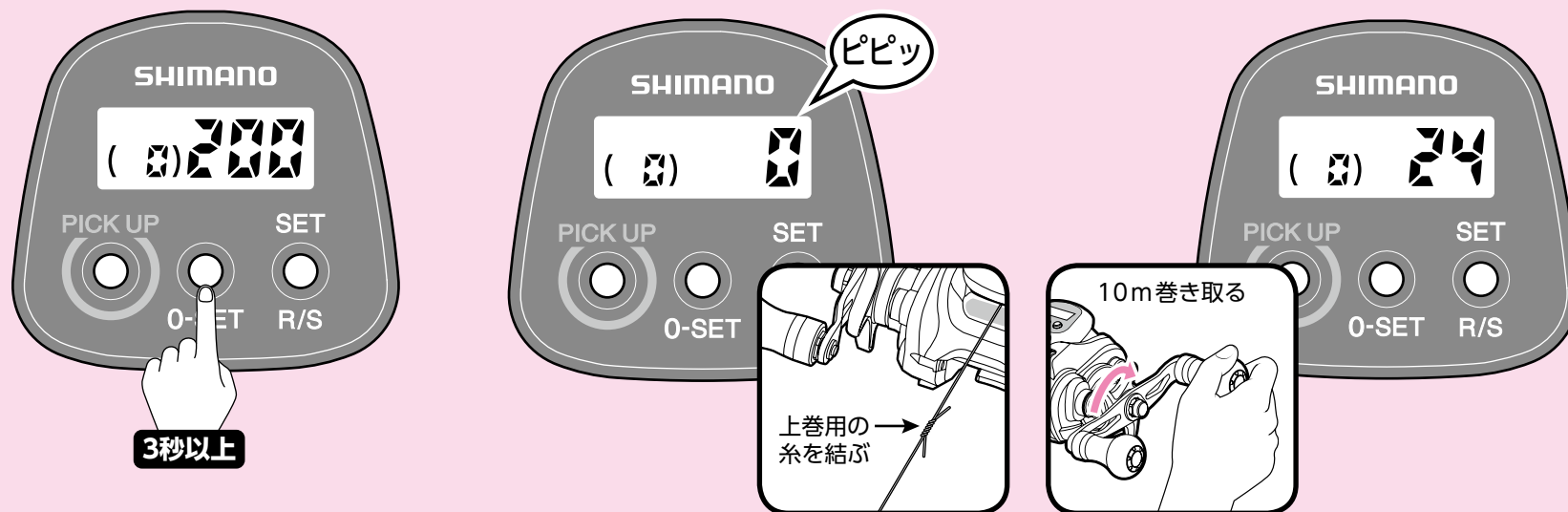


1 カウント値が6m以下で操作します。
6.1m以上の時は0セット (37～38ページ参照) しておきます。
クラッチレバーをONにしてください。
そして、電源の接続を確認してください。
デジタル表示は図のようになります。
(標準モードの状態です。)

2 O-SET(0セット)ボタン、SET(設定)ボタンを両方同時に3秒以上押しと学習モードに入ります。
次に、PICK UP(チョイ巻)ボタンを2回押ししてください。「--」が点滅します。
O-SET(0セット)ボタンを押し、「E3」を決定します。
(学習モード内での学習方法の選択について、詳しくは20～21ページ「学習方法の選択」をご参照ください。)

3 スマートダイヤルで糸を巻いてください。
スプールの回転数に比例した数字が表示されます。巻き上げのテンションは3になるようにしてください。この数字はリールが巻き上げている力(糸のテンション)を数字で表示します。数字=kgではありません。
また、楽楽モード時の数値とも異なります。
スマートダイヤルでの巻き上げの場合、速度はスマートダイヤルで調節できます。
巻き上げを止めるときは、スマートダイヤルを「OFF」の位置にしてください。

注意：カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合と同じ数値を示すわけではありません。



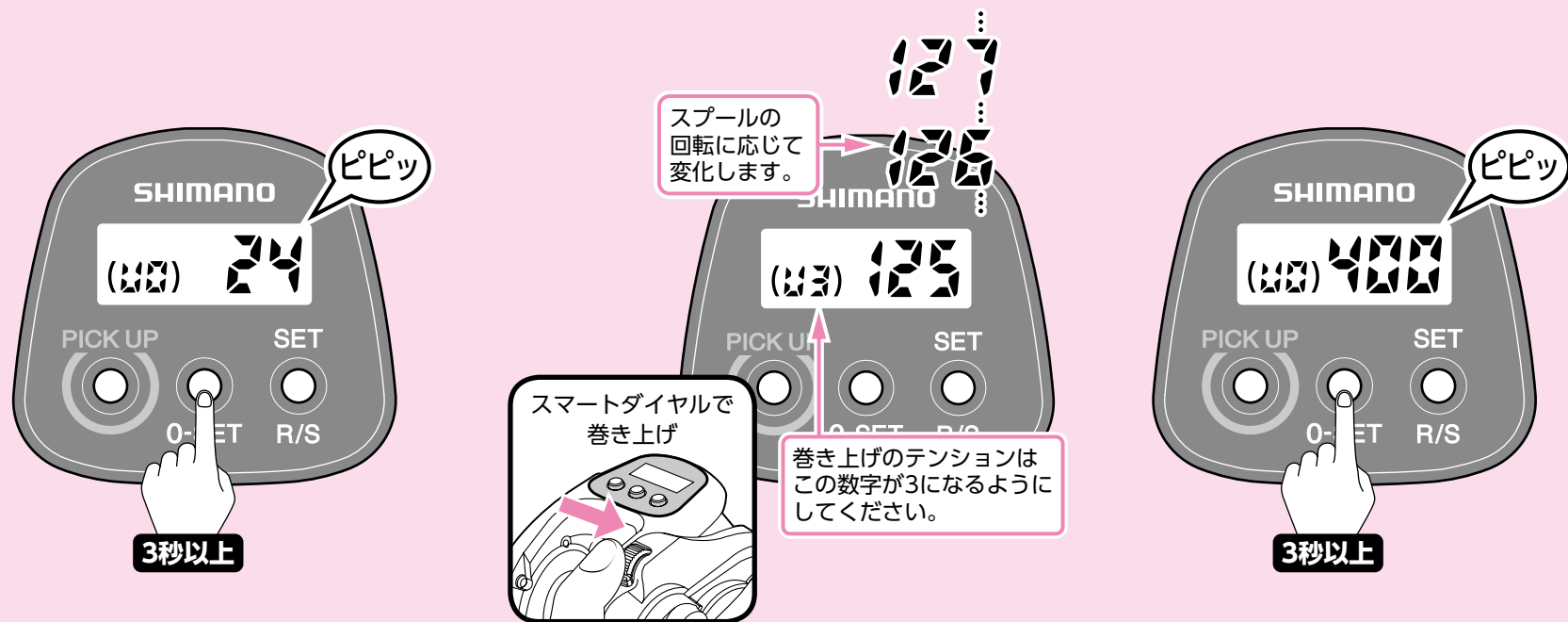
4 下巻き用の糸を巻き終わったら、**0-SET(0セット)ボタン** を3秒以上押してください。

5 「ピピッ」のアラームが鳴り、表示は図のようになります。
巻き終わった下巻き糸に、上巻き用の糸を結びます。

6 上巻き糸を正確に10m分巻き取ります。
スピールの回転に応じて表示が変化します。

次ページにつづく

注意：カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合と同じ数値を示すわけではありません。



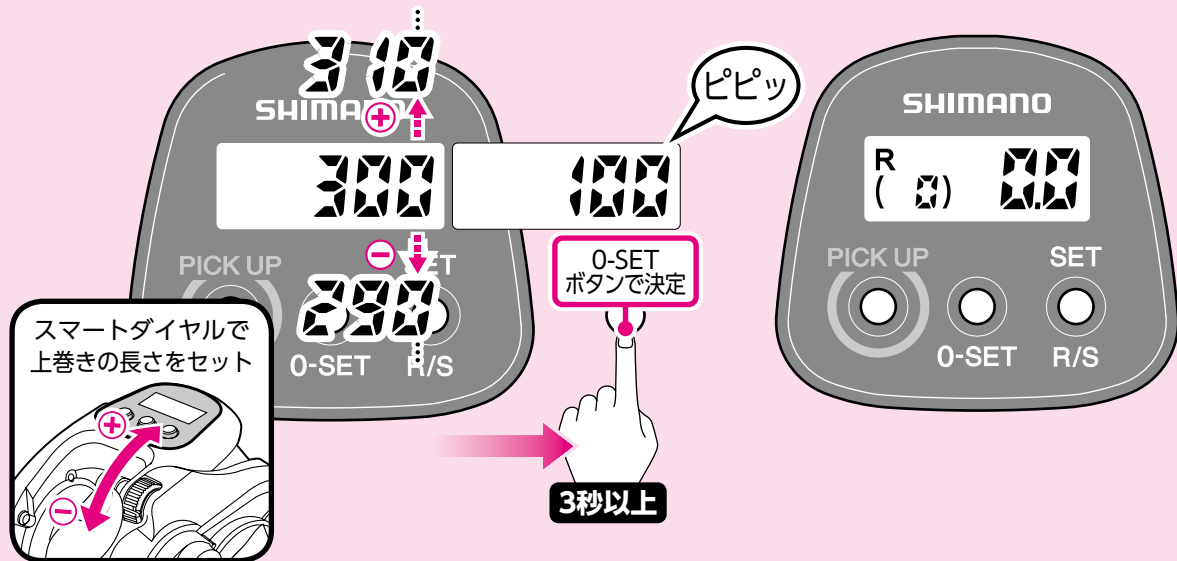
7 0-SET(0セット)ボタン を3秒以上押してください。
「ピピッ」のアラームが鳴り、表示は図のようになります。

8 スマートダイヤルで糸を巻いてください。スピールの回転数に比例した数字が表示されます。巻き上げのテンションは3になるようにしてください。この数字はリールが巻き上げている力(糸のテンション)を数字で表示します。数字=kgではありません。また、楽楽モード時の数値とも異なります。スマートダイヤルでの巻き上げの場合、速度はスマートダイヤルで調節できます。巻き上げを止めるときは、スマートダイヤルを「OFF」の位置にしてください。

9 糸を完全に巻き終えたら、0-SET(0セット)ボタン を3秒以上押してください。
「ピピッ」のアラームが鳴ります。

ご注意：糸を全部巻き込まないようにしてください。巻き込みますと、カウンター誤差の原因になります。

注意：カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合と同じ数値を示すわけではありません。



10 スマートダイヤルで上巻き糸の長さをセットし
O-SET(Oセット)ボタン を3秒以上押し続けてください。

「ピピッ」のアラームが鳴ります。

※初期設定は300mです。(図は300mから100mに変更した場合です。)

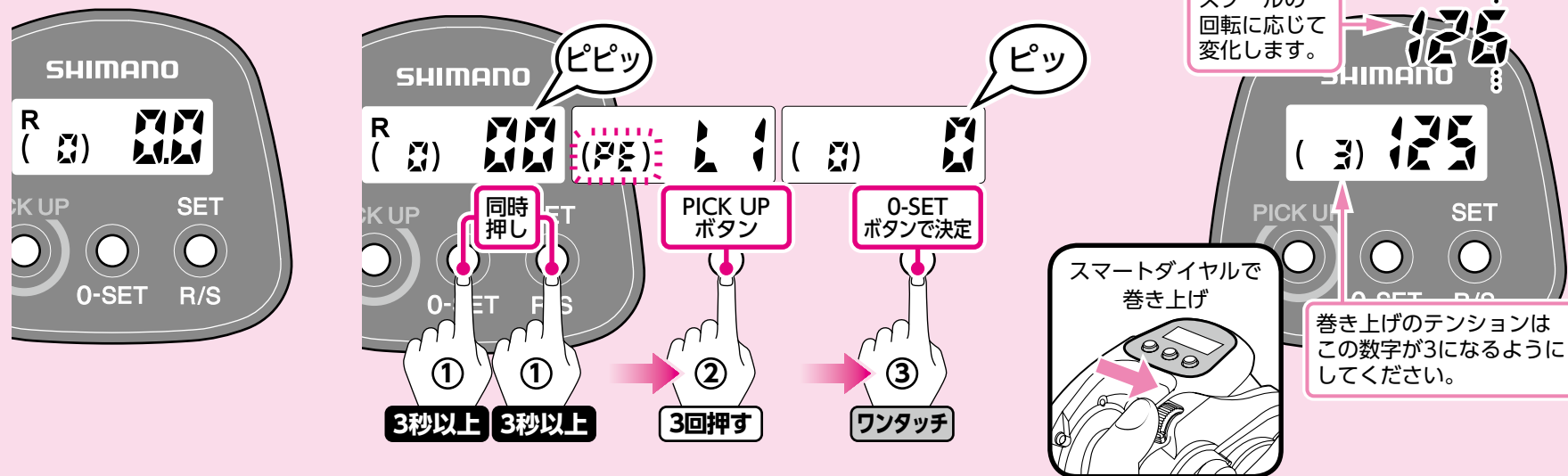
※各入力途中で**PICK UP(チョイ巻)ボタン**を誤って押ししてしまった場合、途中のデータはキャンセルとなります。もう一度やり直してください。

11 表示が標準モードに戻り、学習は完了です。
(カウンターの数値と実際の糸の出た長さとは最大で±3%の誤差が生じる場合があります。)

※誤差とは、学習後1投目の誤差です。

※その後釣りをされていて誤差が大きいと思われる場合は、46～47ページの「糸巻学習補正」を行ってください。より正確な棚取りができます。

4 従来のSLS II 糸巻学習 PEライン学習 (L1)

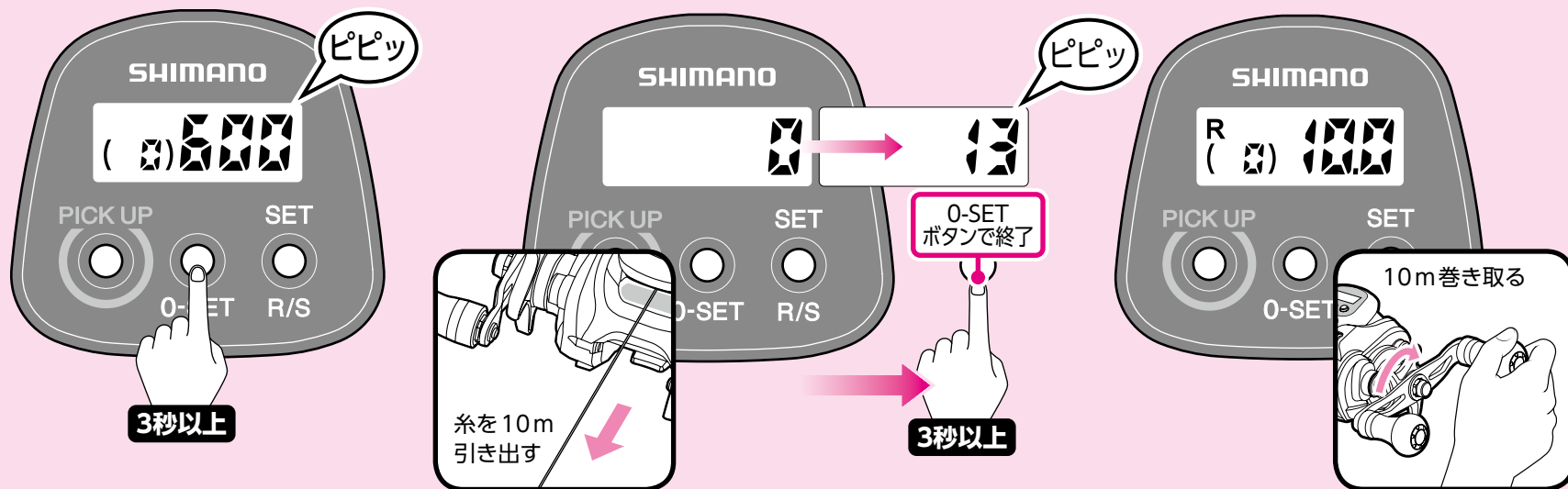


1 カウント値が6m以下で操作します。
6.1m以上の時は0セット (37～38ページ参照) しておきます。
クラッチレバーをONにしてください。
そして、電源の接続を確認してください。
デジタル表示は図のようになります。
(標準モードの状態です。)

2 **O-SET(0セット)ボタン**、**SET(設定)ボタン**を両方同時に3秒以上押すと学習モードに入ります。
次に、**PICK UP(チョイ巻)ボタン**を3回押してください。「PE」が点滅します。
O-SET(0セット)ボタンを押し、「L1」を決定します。
(学習モード内での学習方法の選択について、詳しくは20～21ページ「学習方法の選択」をご参照ください。)

3 スマートダイヤルで糸を巻いてください。
スプールの回転数に比例した数字が表示されます。巻き上げのテンションは3になるようにしてください。この数字はリールが巻き上げている力(糸のテンション)を数字で表示します。数字=kgではありません。
また、楽楽モード時の数値とも異なります。スマートダイヤルでの巻き上げの場合、速度はスマートダイヤルで調節できます。
巻き上げを止めるときは、スマートダイヤルを「OFF」の位置にしてください。

注意：カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合と同じ数値を示すわけではありません。



- 4** 糸を完全に巻き終えたら、**0-SET(0セット)ボタン** を3秒以上押ししてください。
「ピピッ」のアラームが鳴ります。

ご注意：糸を全部巻き込まないようにしてください。巻き込みますと、カウンター誤差の原因になります。

- 5** 糸を正確に10m分引き出します。(糸の10mごとの色の変化、もしくは1mごとのマーカーの数で確認します。)
学習を終了するため、**0-SET(0セット)ボタン** を3秒以上押ししてください。
「ピピッ」のアラームが鳴ります。

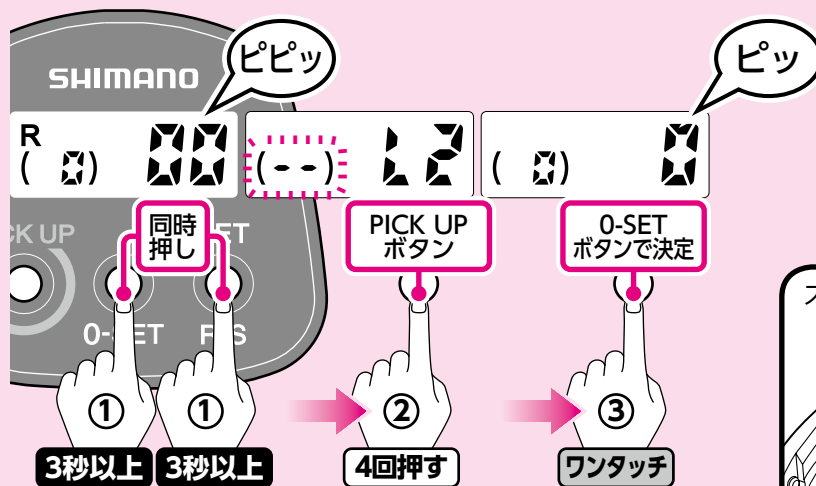
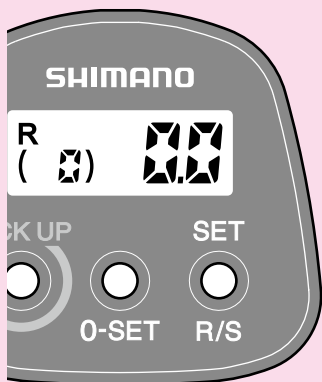
- 6** 表示が標準モードに戻り、学習は完了です。(カウンターの数値と実際の糸の出た長さとは最大で±3%の誤差が生じる場合があります。)
※誤差とは、学習後1投目の誤差です。
※その後釣りをされていて誤差が大きいと思われる場合は、46～47ページの「糸巻学習補正」を行ってください。より正確な棚取りができます。

- 7** 引き出した10m分の糸を巻き取ってください。

5 従来のSLS II 糸巻学習 下巻き学習 (L2)

※ PE2号 100m、PE3号 100mを巻かれる場合：

- ・スプールの下巻きラインを使用してください。
- ・スプールの上ライン…PE2号 100m用
- ・スプールの下ライン…PE3号 100m用



スプールの回転に応じて変化します。



巻き上げのテンションはこの数字が3になるようにしてください。

1 カウント値が6m以下で操作します。
6.1m以上の時は0セット (39～40ページ参照) しておきます。
クラッチレバーをONにしてください。
そして、電源の接続を確認してください。
デジタル表示は図のようになります。
(標準モードの状態です。)

2 O-SET(0セット)ボタン、SET(設定)ボタンを両方同時に3秒以上押しと学習モードに入ります。
次に、PICK UP(チョイ巻)ボタンを4回押ししてください。「- -」が点滅します。
O-SET(0セット)ボタンを押し、「L2」を決定します。
(学習モード内での学習方法の選択について、詳しくは20～21ページ「学習方法の選択」をご参照ください。)

3 スマートダイヤルで糸を巻いてください。
スプールの回転数に比例した数字が表示されます。巻き上げのテンションは3になるようにしてください。この数字はリールが巻き上げている力(糸のテンション)を数字で表示します。数字=kgではありません。
また、楽楽モード時の数値とも異なります。
スマートダイヤルでの巻き上げの場合、速度はスマートダイヤルで調節できます。
巻き上げを止めるときは、スマートダイヤルを「OFF」の位置にしてください。

注意：カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合と同じ数値を示すわけではありません。



4 下巻き用の糸を巻き終えたら、**0-SET(0セット)ボタン** を3秒以上押ししてください。

5 「ピピッ」のアラームが鳴り、表示は図のようになります。
巻き終えた下巻き糸に、上巻き用の糸を結びます。

6 上巻き糸を正確に10m分巻き取ります。
スピールの回転に応じて数値が変化します。

次ページにつづく

注意：カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合と同じ数値を示すわけではありません。



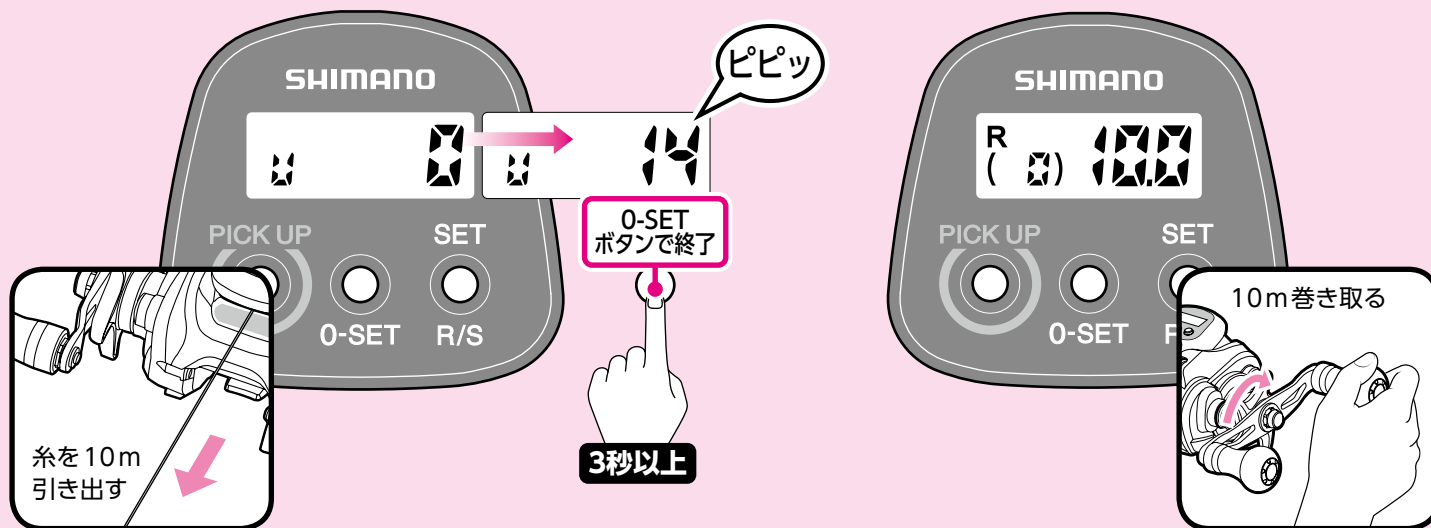
7 0-SET(0セット)ボタン を3秒以上押してください。
「ピピッ」のアラームが鳴り、表示は図のようになります。

8 スマートダイヤルで糸を巻いてください。スプールの回転数に比例した数字が表示されます。巻き上げのテンションは3になるようにしてください。この数字はリールが巻き上げている力(糸のテンション)を数字で表示します。数字=kgではありません。また、楽楽モード時の数値とも異なります。スマートダイヤルでの巻き上げの場合、速度はスマートダイヤルで調節できます。巻き上げを止めるときは、スマートダイヤルを「OFF」の位置にしてください。

9 糸を完全に巻き終えたら、0-SET(0セット)ボタン を3秒以上押してください。「ピピッ」のアラームが鳴ります。

ご注意：糸を全部巻き込まないようにしてください。巻き込みますと、カウンター誤差の原因になります。

注意：カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合と同じ数値を示すわけではありません。



10 糸を正確に10m分引き出します。(糸の10mごとの色の变化、もしくは1mごとのマーカーの数で確認します。)

学習を終了するため、**0-SET(0セット)ボタン**を3秒以上押してください。「ピピッ」のアラームが鳴ります。

11 表示が標準モードに戻り、学習は完了です。(カウンターの数値と実際の糸の出た長さとは最大で±3%の誤差が生じる場合があります。)

※誤差とは、学習後1投目の誤差です。

※その後釣りをされていて誤差が大きいと思われる場合は、46～47ページの「糸巻学習補正」を行ってください。より正確な棚取りができます。

12 引き出した10m分の糸を巻き取ってください。

糸巻学習後の手順 (早く、有効に使いこなすために…)



かんたん手順

これさえ知っていれば
とにかく使えます。



べんり手順

簡単でとっても
便利です。

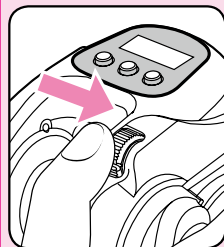


もっとべんり手順

知れば知るほど
釣りの世界が広がります。



スマート ダイヤル

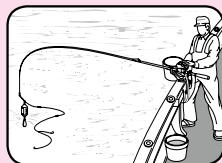


巻き上げ操作を親指1本で可能にしたダイヤル方式。

詳しくは
P16へ!!



0セット

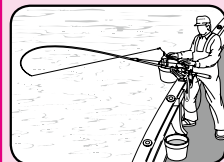


ボタンひとつでシカケが水面にあるとき0mになるよう設定。狙った水深に正確にシカケを投入できます。

詳しくは
P39～40へ!!



船べり 自動停止



竿を立てるとシカケが手元にピタリともどる、船べり自動停止機能は手返しに差がつかます。

詳しくは
P42へ!!



チョイ巻



ボタンを押している間、電動で巻き上げることができます。

詳しくは
P11～12へ!!



棚タイマー



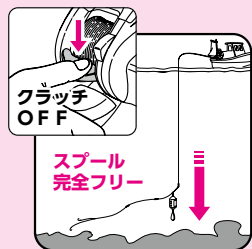
仕掛けが目標の棚に到達してからの経過時間を表示します。

詳しくは
P11へ!!





スーパーフリー スプール



クラッチをOFFにするとスプールが完全フリーとなり、軽いオモリでの底取りも簡単になります。

ご注意：
クラッチをOFFにして糸を出す時は、レベルワインドは連動しません。ドラグが滑っている時は、レベルワインドがスプールと同期しない場合があります。



糸落スピード 表示

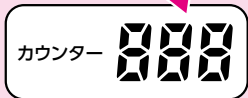


糸落のスピードの目安を表示中は“()”が点滅します。
糸落スピードを安定させることにより、釣果UPにつながります。

詳しくは
P11へ!!



糸巻学習 補正

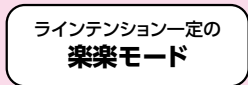
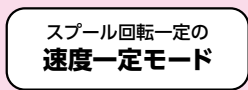


実際のラインマーカーとカウンターのm数を補正することで、より正確な棚取りを行います。

詳しくは
P46～47へ!!



楽速・速度一定 モード切替え



巻き上げパワーが一定の「楽速モード」と、巻き上げスピードが一定の「速度一定モード」の切り替えで、状況に応じた巻き上げが可能です。

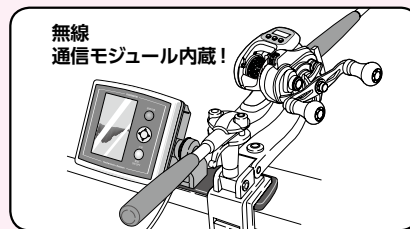
詳しくは
P11・44～45へ!!



Tankenmaru
System



探見丸システム



船べりで魚探が見える探見丸システムと組み合わせることで双方向に通信が可能となり、使い勝手が広がります。
この製品にはデジタルカウンター内部に無線通信モジュールが内蔵されていますので、通信ケーブルを必要とせず、探見丸子機と無線通信できます。
(2004年探見丸【白黒液晶】を除く)

詳しくは
P10・48～49へ!!



応用

シカケを速く落すテクニック。

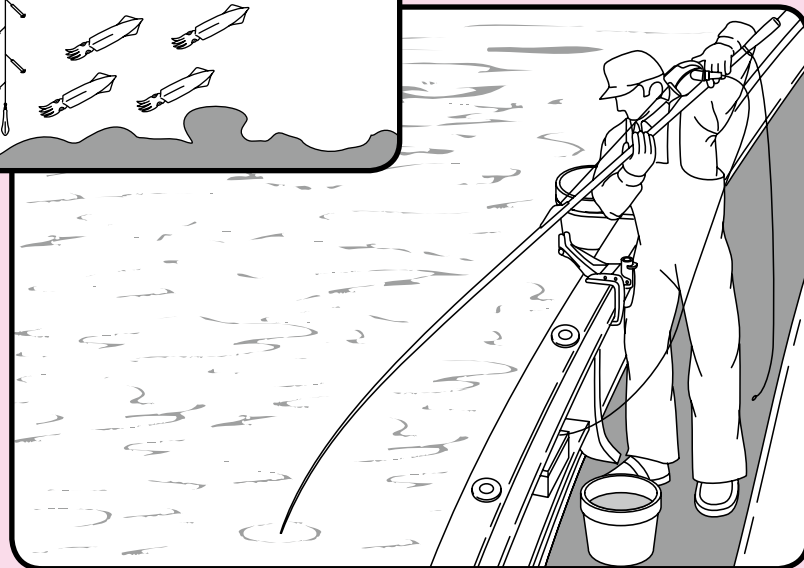
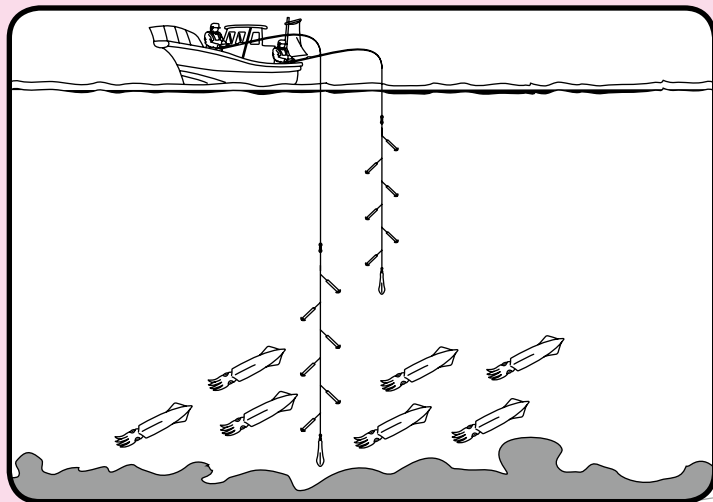
- 一般的にはメカニカルブレーキノブを締めて、スプールのフリー回転を少し重くし、船の上下動による糸のバックラッシュを防ぎます。
- しかし、より速くシカケを落とすためにはメカニカルブレーキノブを締めずに、自分の指でスプールをサミングしてください。
- 竿先を下に向け、竿全体を立てることで、ガイドの抵抗を少なくすることができます。
(右図)

※スーパーフリースプールを採用しておりますので、モーターを強制的に回しての「糸送り」機能は搭載しておりません。

※シカケ落下中に、レベルウィンドの位置をスプールのセンターに位置することで、さらにスムーズに落下させることができます。

シカケ落下中に、**PICK UP(チョイ巻)ボタン**を押すことで、レベルウィンドを動かすことができます。

※シカケ落下中に、モーターがONになっている状態でクラッチをONにしますと、クラッチの故障の原因になります。必ずモーターがOFFになっている事をご確認の上、クラッチをONにしてください。



0 (ゼロ) セットの設定 (釣りを始める前に必ず行なってください。)



正確な棚取りを実現するために。

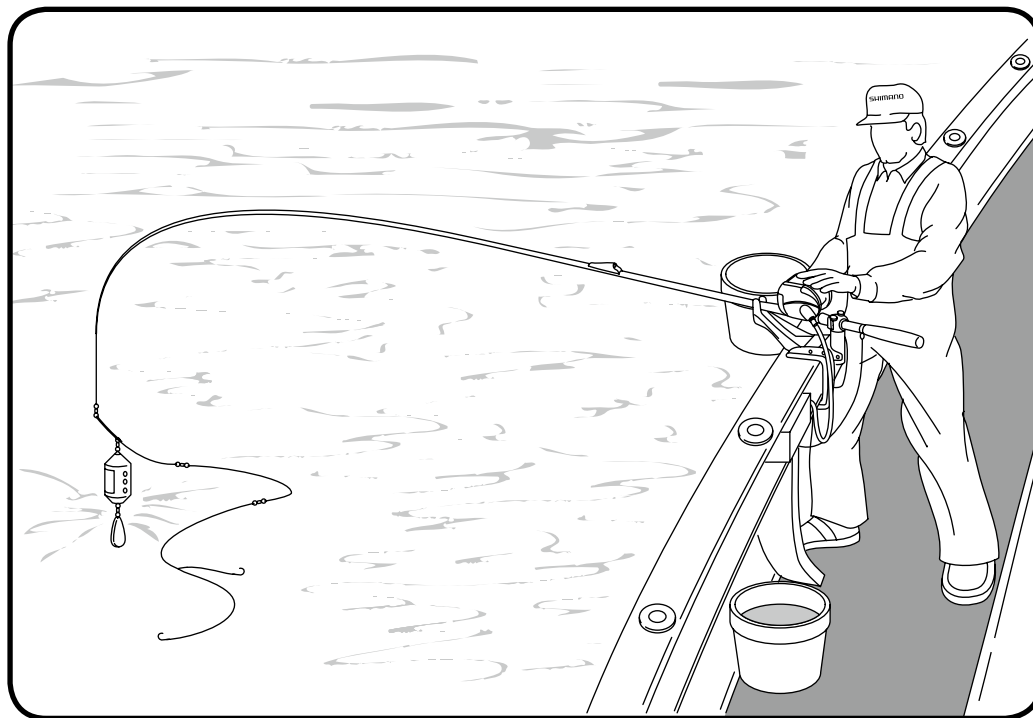
釣果アップには、正確な棚取りが不可欠です。そこで「0セット」を設定します。

「0セット」とは、シカケが水面にある時を0mとして設定することです。

「0セット」によって、シカケの位置が水深を示すようになり、正確な棚取りを可能にします。

※糸を巻き込み過ぎた状態での0セットは、糸巻学習が不正確になる原因となりますのでおやめください。

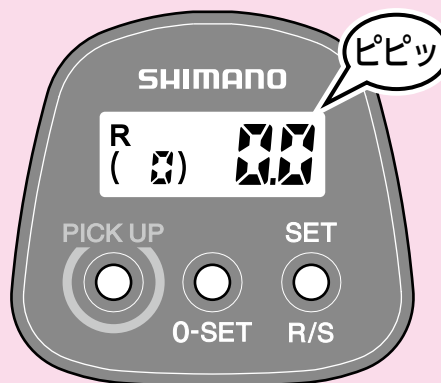
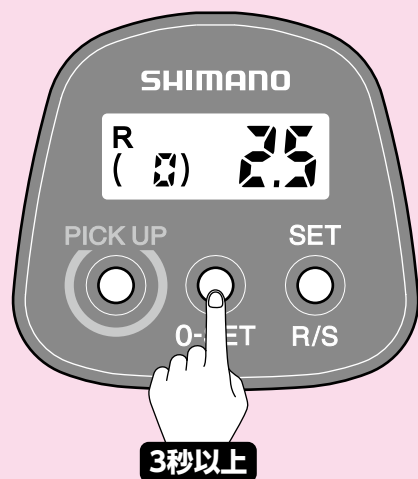
※水深表示が10.1m以上で0セットをすると、高切れ補正となります。



シカケが水面にある時を0mとして設定します。

次ページにつづく

0 セットを試してみましょう。



1 シカケを水面に合わせ、
0-SET(0セット)ボタンを3秒以上押し続けてください。

2 「ピピッ」のアラームが鳴り、上図のように表示が変わります。
これで0セットは完了です。

ご注意!

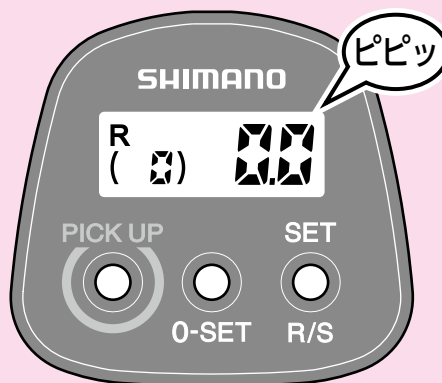
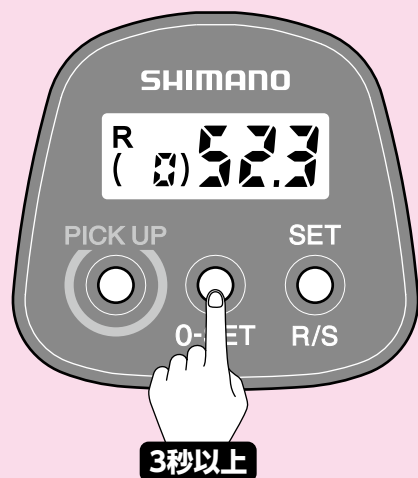
糸を巻き込み過ぎた状態での0セットは、糸巻学習が不正確になる原因となりますのでおやめください。

高切れの補正

高切れセット

高切れした場合も、簡単操作で補正が可能です。

※水深表示が 10.1m 以上で 0 セットをすると、高切れ補正となります。



1 シカケを結びなおし、水面にシカケを合わせて、**0-SET(0セット)ボタン** を3秒以上押し
ます。

2 上図のように表示が変わります。
これで、コンピュータが自動的に高切れ
した位置からの実測値表示にプログラム
を変更します。

⚠️ ご注意!

高切れをした場合、道糸を巻き込んでしまってから高切れ補正を行うと、糸巻学習が不正確になります。
道糸の巻き込みには十分ご注意ください。



**シールドタイプ S A-RB で
さらなるスプールフリーを実現！**

従来のA-RB（アンチラストベアリング）の側面に防錆素材でシーリングし、塩分の浸入を減少させたシールドタイプ S A-RBを適材適所に配置したことにより、シカケ落下時のスプールフリーが更に軽くなりました。

それによってイカ釣りでのシカケ落下性能も飛躍的にUP、また電動リールでは困難と言われた完全フカセも攻略。

また、レベルワインド部分での糸ガラムを完全にシャットアウトする、セーフティーバーとレベルワインドのベストバランスを実現させました。

A-RB処理によるベアリングの防錆性はもちろん、ベアリング内部に浸入した塩分の結晶化による“塩噛み”をも減少させ、ソルトウォーターでの使用をさらに快適なものにしています。

**ボールベアリング計10個中
シールドタイプS A-RB8個内蔵**

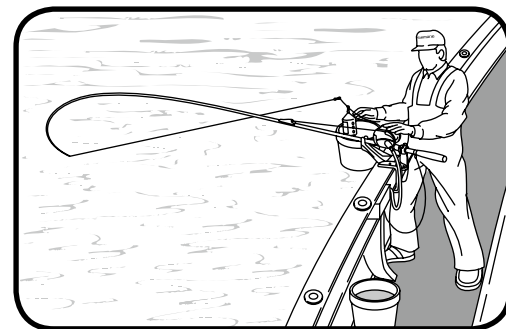
※モーター内部に通常ベアリング2個内蔵

S A-RB



電動巻き上げ停止後、竿を立てればシカケが手元にもどります。

船べり停止後、竿を立てたときにシカケが手元にくるように自動的に設定されます。



※電源を入れた初回投入時のみ6mで船べり停止します。

2回目以降は5秒以上止めていた位置を次回の船べり停止位置として、コンピュータが自動的に記憶します。

（この機能は1m～6mの範囲で作動します。水深表示が1.0m未満の時は、安全のため1mの設定になります。）

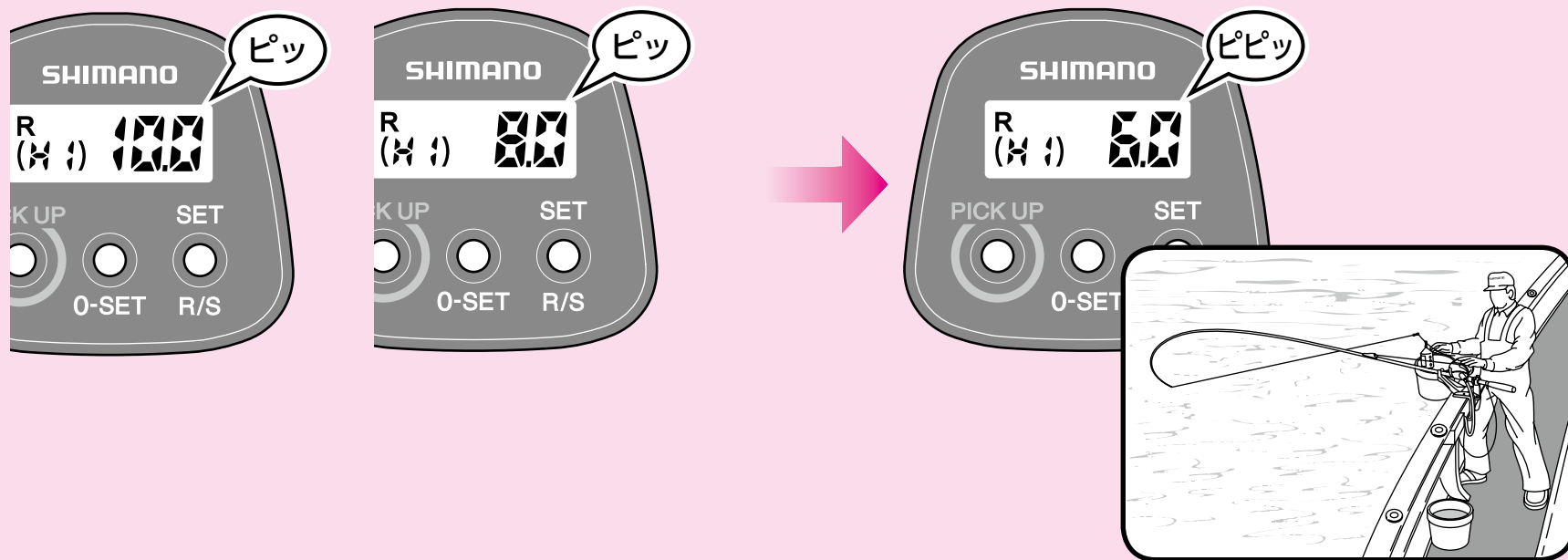
※本製品は仕掛巻込防止機能を搭載しているため、負荷の変動が大きいとリールが判断した場合は、安全の為、船べり停止をかなり手前で止めることがあります。故障ではございませんので安心してご使用ください。

●ワンポイントアドバイス

短い竿、例えば1mの竿で足場の高い船のミヨシで釣りをされる場合、通常のように海面で0セットをされますと、船べり停止機能が働く1～6mの範囲に入らなくなります。そんな時はシカケを穂先位置まで巻き上げ、その位置で0セットをされますと手元にシカケが来るようになります。その際、海面で0セットされていない為、竿先から海面までの距離が実際にはズれてしまいます。

アラーム (船ベリ)

船ベリ自動停止位置の4m手前からアラームでお知らせします。



- 1** セットされている船ベリ自動停止位置の4m手前から、2mごとにアラームでお知らせします。
図はスマートダイヤルのHIで巻き上げた場合の表示です。

- 2** 船ベリ自動停止位置 (この場合は6.0m) で「ピピッ」のアラームが鳴り、自動的に巻き上げを停止します。
船ベリ停止後、竿を立てるだけで手元にシカケがくるので、すばやく上図のようにとりこむことができます。

2通りの巻き上げ方・楽楽モードと速度一定モード



1 楽楽モードと速度一定モードの切り替え方法

- 電源を入れた際には楽楽モードで起動します。
R/S ボタンを押すことにより、
速度一定モードと楽楽モードの切り替えができます。(右図)
巻き上げ中の操作も可能です。

現在のモードがデジタルカウンターに表示されます。

R (楽楽モード) : 緑のバックライト (「R」点灯)

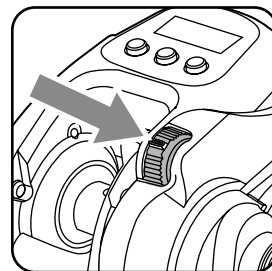
S (速度一定モード) : 赤のバックライト (「S」点灯)

2 速度一定モードとは？

巻き上げてくる対象物の大きさ、つまりリールにかかる負荷の大きさに関係なく、常に設定された速度*を保つようにモーターのパワーを自動的に調整して、一定の速度で巻き上げます。

(*速度→電動リールのスプール回転速度)

ご注意：設定値 1～4 は非常に遅いデッドスローに設定しております。オモリの負荷等により巻き上げが止まってしまうことがありますので、その場合は設定値を上げてください。



■スマートダイヤル
巻き上げパワーまたは
スピードを瞬時に調整
することができます。

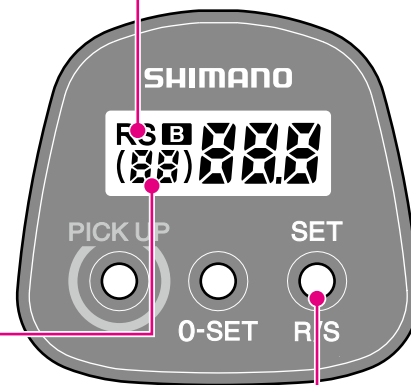
◎スマートダイヤル設定表示
スマートダイヤルの操作時に
巻き上げパワーまたはスピード
を表示します。
※「0～Hi」の31段階

■R/Sボタン(楽/速ボタン)
速度一定モードと楽楽モードの切り替えができます。
巻き上げ中の操作も可能です。

◎現在のモード

R (楽楽モード) : 緑のバックライト (「R」点灯)

S (速度一定モード) : 赤のバックライト (「S」点灯)



3 楽楽モードとは？

「楽楽モード」は、設定した巻き上げパワーを一定に保とうとする機能です。つまりラインにかかるテンション（負荷）をリールが感知して、モーターの回転速度を自動的に変化させ、常に一定のテンションを保って巻き上げます。

つまり

●モーターと魚の瞬間的な引っ張り合いを避けてくれる。	●波が荒くて竿の操作では追いつかないときにも便利。
●魚が突っ込んだり、船が急に持ち上がったときの急なテンションの上昇に応じて、モータースピードが遅くなって調節してくれる。	●ポンピングで竿をおろしたときなど、急なテンションの降下に応じてモータースピードが速くなって、シカケにたるみができない。
これなら楽だし、手巻き感覚で安心です！	

※工場出荷の初期設定は「楽楽モード」となっております。

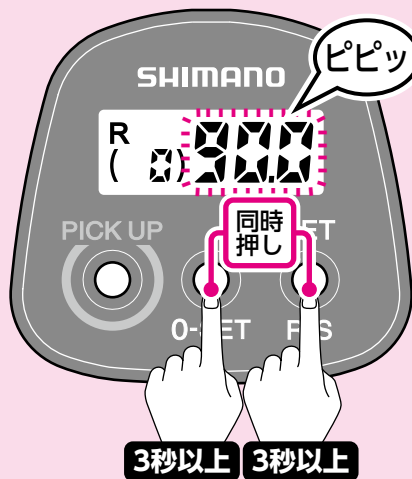
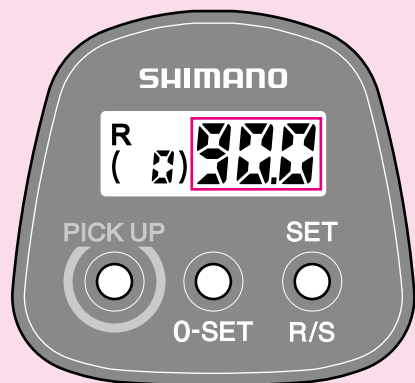
※電源をOFFにされますと、常に「楽楽モード」の設定になります。

さらにこんなメリットも…

- テンション設定はダイヤル操作で瞬時に調整可能です。
- 電動と魚の瞬間的な引っ張り合いがなくなることによって、シカケ本来の強度が得られます。

ご注意：設定値 1～4 は非常に遅いデッドスローに設定しております。オモリの負荷等により巻き上げが止まってしまうことがありますので、その場合は設定値を上げてください。

カウンターの水深と実際のラインマーカのずれを補正することでより正確な棚取りを行えます。



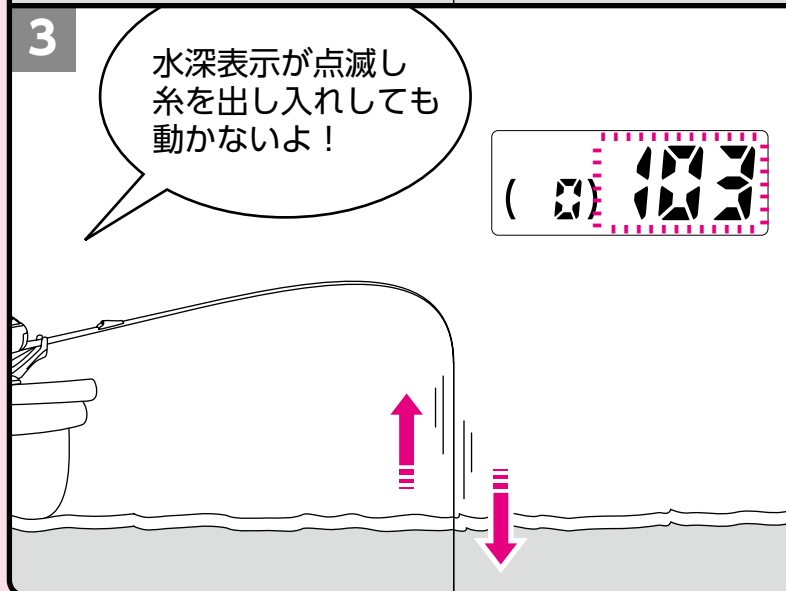
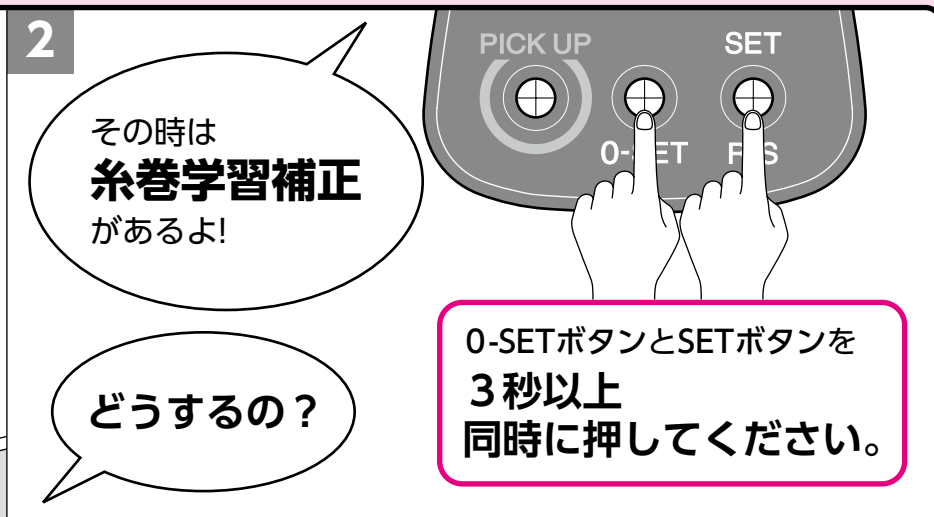
- 1 カウント値が10m以上の時に有効です。現在の水深表示を切りのいい数値（少数以下を0）に合わせてください。少数以下を0にしますとラインマーカで合わせることができます。ラインの色が変わる前後（10m単位）がより分かり易くなります。
 - ※ 100mを超える場合、例えば表示が199から200に変わった所で合わせて頂くと、より正確な補正となります。

- 2 **O-SET(0セット)ボタン**、**SET(設定)ボタン**を両方同時に3秒以上押すと糸巻学習補正に入ります。「ピピッ」のアラームが鳴り、水深表示が点滅します。この時、糸を手で出し入れしても表示は変わりません。ここで、**実際の糸の位置**（例図の場合ですと90m）を水面に合わせてください。
 - ※ 補正をキャンセルしたい場合は**PICK UP(チョイ巻)ボタン**を押してください。モーターの作動（補正中の巻き上げ、魚が掛かった場合等）でもキャンセルとなります。中断した場合は前回の補正值が使用されます。

- 3 **O-SET(0セット)ボタン**を押して補正を確定してください。「ピピッ」のアラームが鳴ります。標準モードに戻り、補正は完了です。現在の水深表示に補正後の水深が表示されます。

電源をOFFされましても、糸巻学習は補正されたまま記憶されます。

注意：液晶画面内の設定・数値は例として表示しています。実際と同じ設定・数値を示すわけではありません。



探見丸システム接続時の機能一覧

本製品の電動リールを探見丸に接続された場合、探見丸で下記の機能が使用可能になります。

②③⑥⑦を除き、下図□囲みの機能がご使用いただけるようになります。探見丸メニュー画面、各機能の詳しい操作方法などは探見丸取扱説明書をご覧ください。

対応電動リールの機種、使用される探見丸の機種により使用可能になる機能は異なります。画面図は例として表記しています。実際とは異なりますのでご了承ください。

探見丸のリール設定画面



※13探見丸CV-FISHの画面を参考にしています。

①[楽速切替]…

電動リールの楽楽モード・速度一定モードの切り替えが探見丸から操作可能です。

②[糸送り]…(本製品には対応いたしません。)

電動リールの自動糸送り機能の[ON]・[OFF]が探見丸から操作可能です。

③[上底切替]…(本製品には対応いたしません。)

電動リール水深表示の[上から](水面から)・[底から]を探見丸から設定できます。

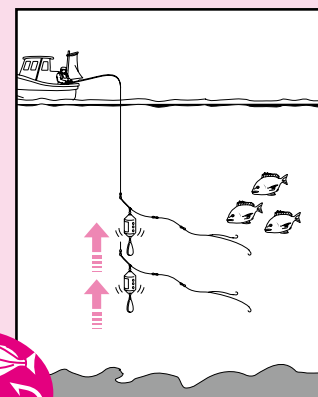
④[さそい]…

電動リールにさそい動作を再現させることができます。さそいパターンを選択、または[学習]でオリジナルのさそいパターンを入力できます。

※電動リール側からのさそい[ON/OFF]はできません。探見丸側からのみとなります。

⑤[さそい幅]…

さそい動作を行う幅の指定ができます。

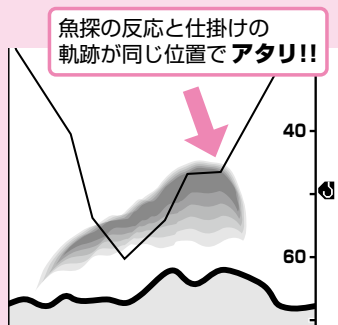


※イラストはイメージです。



⑧ [仕掛軌跡]...

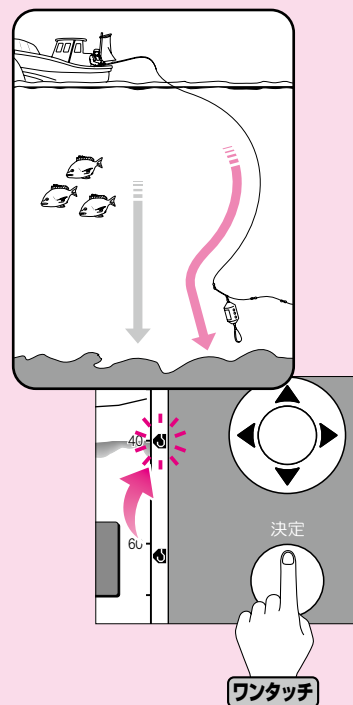
シカケの軌跡を表示します。どの時点でアタリがあったかなど簡単に把握でき、さそいの目安やコマセタイミング、次回投入時の参考などに便利です。



⑨ [位置補正]...

シカケの水深と魚探画面上の位置を簡易的に同調することができます。従来のカウンター付リールが表示する水深は、あくまで巻かれていた糸の放出量であり潮の流れなどで表示水深とシカケの位置にはズレが生じていました。(右図)探見丸システムではワンタッチでズレを補正。以後、魚探画面上のシカケマークが実際の位置を表示してくれます。

※電動リールからは位置補正できません。探見丸からのみ操作できます。



⑩ [仕掛回収]...

[ON] にすると電動で巻上げ回収時、仕掛が船縁まで回収される残り時間を魚探画面に表示します。

⑪ [電動リールナビ]...

電動リールのモーター温度と電流レベルをグラフで表示。モーター温度がレッドゾーンに入ると警告アラームで通知。ブレーカーが作動する直前に知らせてくれるお助け機能です。

⑫ [水深並列表示]...

リールの水深と海底の水深を並列に表示します。未然の根掛かり防止に大きく貢献します。

⑬ [ファイト時間表示]...

電動で巻き始めた時から、船縁停止までにかかった時間を表示します。

⑭ [リールデータ]...

電動リールのデータ(巻上距離・使用時間)の確認ができます。

お取り扱い上の注意

本製品は精密部品で構成されていますので、下記注意事項を守ってお取り扱いください。また、釣行後の手入れを十分行ない、末永くご使用ください。

1 リールのお手入れ方法

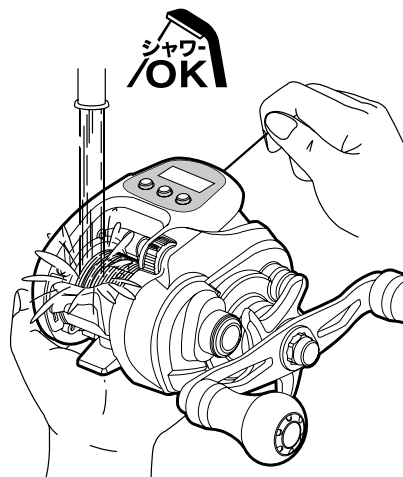
※お手入れの際には必ずケーブルを抜いて、リールを完全に冷ましてから行ってください。

1. まずドラグをしっかりと締め込んでください。
2. 水道水をリールにかけながら、リール外側の汚れをスポンジで落とします。
※水中に浸けて洗わないでください。
3. スプールと本体の間に水をかけながらクラッチを切って道糸を2～3m出します。(図参照) これによりスプール軸受け部に付着した塩分を洗い流せます。
4. ドラグを目一杯ゆるめ、影干ししてよく乾燥させてください。

※ケーブルのワニ口部分には海水中の不純物が付着している場合がありますので、必ず真水で洗い流すか軽くブラッシングしてください。

※ベアリングの塩カミについて

S A-RB (シールド耐塩水ベアリング) はベアリング本体、シールドともに錆びにくい物になっています。しかしシールドはベアリング内部に塩水が浸入して発生する『塩噛み』を完全に防ぐものではありません。ベアリング内部に塩水が浸入して乾燥すると、塩噛みを起こす場合があります。錆びている訳ではありませんが、



同様に音なり、ゴロ付き等の症状が出る場合があります。解消するためには、程度にもよりますが、S A-RB を取り出して真水で洗い流して塩抜きするか、または、S A-RB ごと交換する必要があります。メンテナンスをお受けいただくことをお勧めします。

※保管の際は必ずリールからケーブルを外して保管してください。

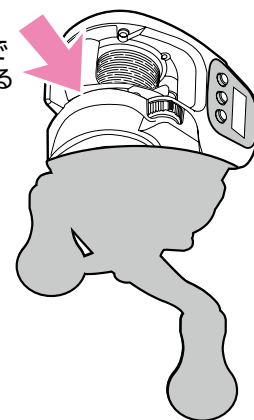
2 リールのお手入れ方法 (スプール回転性能に低下が見受けられた場合)

- 通常のお手入れ方法にて、スプール回転がスムーズでないと感じられた場合(リールのハンドル側ベアリングの塩カミによる場合)

※ケーブルは必ず抜いた状態で行ってください。

1. リールのハンドル側のスプールと本体の間までリールを浸水させて(右図参照・リール全体を浸水させないでください。) スプールを回転させますと、ベアリングに噛み込んでいる塩が抜けて回転性能がUPします。

ここまで浸漬する



2. リールを水から引き上げてリールのコネクター側を下にして、水を排水してください。
(リール内部に溜まった水を完全に排水させます。)

上記を行っても改善が見られない場合はオーバーホールに出してください。

3 ご使用上の注意

- 電動リールの特性として、モーターがONとなっており、糸が巻き込めない状態（魚が掛かりドラッグがすべっている状態）がよくありますが、これは車に例えるならサイドブレーキを掛けたまま走ることと同じです。電動リールもこの状態を長く続けると、ドラッグ部分のグリス焼け→ドラッグ焼け→本体の破損へとつながります。くれぐれもご注意の上ご使用ください。
- 根掛かりした時には、竿やリールで無理にあおらないで、できるだけ釣場に糸の残らないように引き寄せて切ってください。
- リールはていねいに扱ってください。移動時、特に放り投げやバッグ内で他の道具との接触による破損には十分ご注意ください。
- リールは落としたり衝撃を与えないよう、丁寧に扱ってください。
- 船の竿立てに収められる時は、リール後部及びケーブルに衝撃を与えないよう、また、ケーブルを折り曲げないようにご注意ください。特にケーブルをリールと船べりの間にはさまないようにご注意ください。
- 偏光ガラスの種類によってカウンター液晶画面が見にくくなる場合があります。
- 高負荷巻き上げ後に仕掛け投入して巻き上げる時は注意してください。仕掛けが穂先に巻き込む可能性があります。
- 樹脂脚を採用しているリールにおきましては、金属製リールシートでご使用されますと傷が入り、最終的に破損に至る場合がございます。パイプシート内部にリール脚保護用樹脂が装着されているかどうかご確認の上、ご使用ください。
- スーパーフリースプールを採用しているリールにおきましては、モーターがONになっている状態でクラッチをONにしますと、クラッチの故障の原因になります。必ずモーターがOFFになっていることをご確認の上、クラッチをONにしてください。

- スーパーフリースプールを採用しているリールにおきましては、クラッチをOFFにして糸を出す時は、レベルウィンドは連動しません。ドラッグが滑っている時は、レベルウィンドがスプールと同期しない場合があります。
- 静電気により一時的に液晶の表示しない部分ににじみ現象が発生することがありますが、機能に影響はありません。

弊社スペシャルリチウムバッテリー 7A (BT-021B) をご使用されますと、電動リールに高負荷が掛かった際、バッテリー内部の保護回路が働きバッテリーのブレーカーが上がってしまう場合がございます。（その場合、電動リールの液晶表示は消えます。一旦ワニ口を電極から取り外し、再度ワニ口を電極に取り付けていただくとブレーカーは復帰いたします。）

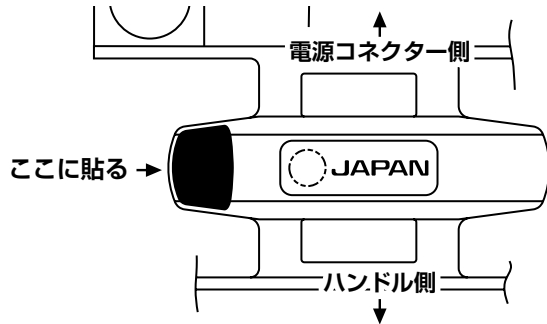
●「脚調整シート」のご使用方法

ご使用になるロッドのリールシートの形状によりましては、リールがしっかりと固定されずガタが出る場合があります。このような場合、同梱の「脚調整シート」をご利用ください。

1. リールの脚裏に挿絵の様に片側だけ（リールシートのネジフードに入り込む側）に貼っていただき、ガタが止まったかどうか確認してください。
2. 1を行ってもガタが止まらない場合は、もう片方の脚裏にもシートを貼ってください。その際、リールシートとの掛かり代が十分であるかご確認ください。3mm以上リールシート内に入り込んでいればOKです。
3. 2の様に両方に貼ってもガタが止まらない場合は、規格外となりますのでご使用をお止めください。

※ご注意

リール脚裏の両方に貼ってしまうと、リールシートとの掛かり代が少なくなり、最悪の場合、リールが外れてしまう場合があります。



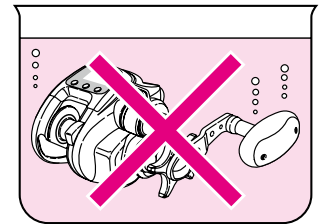
4 お手入れの方法

●定期メンテナンス - 弊社サービスへご依頼ください。

リールの状態は、使用頻度のみならず、使用環境、使用方法、対象魚等によって大きく変わります。回転時の異音、違和感を感じられたら、お買い上げの販売店を通じて直ぐさま弊社サービスへ、そうでなくとも半年に1度はお預けいただくことをおすすめいたします。

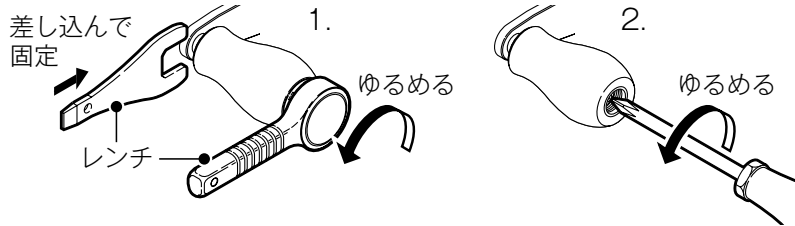
- 保管の際は必ずリールからケーブルを外して保管してください。
- リールを使用にならない時はコネクターキャップをしてください。
- リールは絶対に分解しないでください。内部にはモーター、ブレイカーなどの電気部品が入っていますので故障の原因となります。
- ドラッグ部分には絶対オイルを付けしないでください。オイルが入るとドラッグ力が低下することがあります。
- 高温、高湿の状態では長時間放置されますと、変形や強度劣化の恐れがあります。長期保存される場合は、前記の手入れを実施後、風通しの良い場所で保存してください。

- リール本体、特にカウンターユニット部は、水没させないでください。（カウンターユニットは日常生活防水仕様ですがトラブルを防止するため、水没させないでください。）



●ハンドルノブの取り外し方

1. 付属のハンドルノブレンチ 2 種を下図のように使用し、四角形のハンドル軸を固定してハンドルノブキャップをゆるめて取り外します。
2. ノブ内部のネジをゆるめて外します。

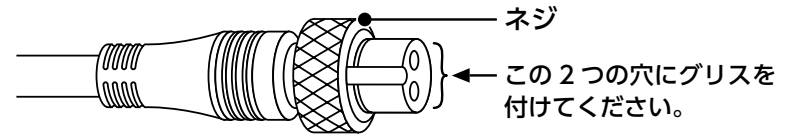


- お手持ちのリールを末永くご愛用いただけるよう、シマノリール専用グリス（下記）を使用してください。

【図 1】と、ウォームシャフトとウォームシャフト両側の箇所に付けていただくようお願いします。

シマノ純正リールグリススプレー (SP-023A)

【図 1】 ケーブルの端子の 2 つの穴
リール本体側のケーブルの端子にも塗布していただくと、より効果的です。



5 セーフティ機能

●自動復帰ブレーカー


電動リールに過負荷がかかった場合、リールを保護するため1秒間隔でモーターがON/OFFとなりますが、異常ではありません。その状態を続けると最終的には自動復帰ブレーカーが作動し、全表示が点滅します。


作動した際は、モーター保護のためモーターをON・OFFせずに5分以上休ませてください。(この際、ハンドルで糸を巻いたり、クラッチを切って糸を出したりしても糸巻学習は保持され、カウンターは正常に働きます。) 点滅が点灯になればブレーカーは復帰です。

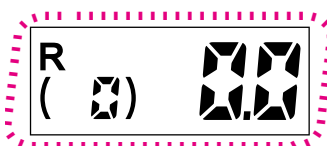
ご注意：

- ブレーカーが作動している間は、電源をOFFにした場合でも復帰されません。
- ブレーカーが作動する種類により、ブレーカー解除までに30秒～3分程度の時間がかかります。

●バッテリー検出表示

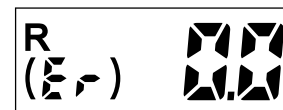
バッテリー電圧が10.5V(リチウムイオンバッテリーは13.5V)以下になった場合、またはケーブル・コネクターの接続不良がおこると、バッテリーの絵文字  が点灯します。


絵文字  が点灯しましたら、ケーブル・コネクターの接続不良がないかをお確かめください。接続不良ではない場合、バッテリー残量が少ないことが考えられます。



●スマートダイヤルに異常が起こった場合

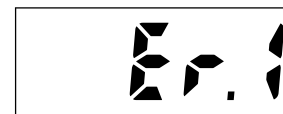
右記のエラーメッセージが出ましたら「製品のお問い合わせ・アフターサービスのご案内」の項目を参照していただき、修理に出してください。



※下記の  表示の際には糸を出したり巻いたりしないでください。糸巻学習が不正確になります。

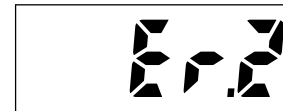
●電圧が高すぎる場合

DC28V以上の電圧がかかった場合に表示されます。ご使用の電源が12V～14.8V仕様かどうかお確かめください。



●糸巻学習操作が不正確な場合

糸巻学習操作が不正確な場合の表示です。お手数ですが、再度学習をおこなってください。



シマノ巻上力

21 kg

206N

シマノ独自の基準から算出した最大パワーによる参考値です。

実用巻上持久力

4.2kg

41.2N

長時間耐久維持できる巻き上げ力
実用巻上持久力とは負荷をどんどん増やしていった際に、最終的に電動リールのブレーカーが作動したときの負荷を表示したものです。

最大ドラグ力

5.0 kg

49.0N

本製品の最大ドラグ力は、スタードラグを25kg・cmのトルクで締めこんだ時のドラグ力を最大ドラグ力と表現しています。

最大巻上速度

155 m/分

無負荷時の巻き上げ速度の値です。

実用巻上速度

1kg (負荷)	2kg (負荷)	3kg (負荷)
125m/分	113m/分	98m/分

水深100mのシカケ回収に要する時間

実用巻上速度とは、たとえば300番のリールならPE1号糸を300m巻いた上で100m引き出し、指定の負荷を掛けてMAXで巻き上げます。

その時にかかった時間を速度に変換した値です。

測定条件：◎電源は13V◎常温15～20℃（リチウム等高電圧の電源を使用されますと、さらにハイスピードになります。）※データは使用環境条件等で若干変動する場合があります。

品番	ギア比	自重(g)	糸巻量(号-m) PE[パワープロ ポートゲーム]	糸巻量(号-m) フロロ	最大巻上長 (cm/ハンドル 1回転)	スプール寸法 (径mm/ 幅mm)	ハンドル長 (mm)	ベアリング数 (SA-RB/BB ^{※1} /ローラー)
Force Master 300DH	5.1	410	0.8-400 1-300 1.5-200 2-150 *0.8-200 1-200	2-140 3-100	50	31/16	51	8/2/1

*糸巻量の太字は、スプールの下巻きライン部まで下巻きをした場合です。※1 通常ベアリング2個はモーター内部に内蔵。

●標準付属品

ケーブル1本、取扱説明書、分解図、専用レンチ(2種類各1本)
糸通しピン、リール袋、保証書、脚調整シート2枚

●電源(直流)

DC12V(リチウムイオンバッテリー可)

●夢屋パーツ取り付け可能

ハンドル				ハンドルノブ
BH-2	BH-3	BH-4	BH-5	A

故障かな?と思われたときは

こんなとき	操作	参照
液晶が真っ黒、及び全文字が現れる。	高温度の雰囲気(車のトランクの中等)にさらされた時に生じる場合がありますが、温度が下がるにしたがって正常にもどります。	
液晶が表示しない。	バッテリーとケーブルの(+)(-)とが正しく接続されているかをお確かめください。 バッテリー容量が不足していないか、ご確認ください。 ケーブルのワニ口部分に不純物が付着していないかご確認ください。	P.16~17
液晶が表示しない。(極寒で使用の場合)	液晶の特性上-15℃以下で放置されますと、電源をつないでもしばらくの間表示しません。(電源がONの状態になり、カウンター内部の基板が温まれば表示されます。) 極寒で使用される場合、船がポイントに着くまでは電動リールをキャビンに入れてもらうかカバーを付け、保護することをおすすめします。	
糸巻学習がセットされない。	お手数ですが再度学習の上、ご確認ください。	P.18~33
ラインを送り出してもカウントしない。	お手数ですが再度学習の上、ご確認ください。	P.18~33
誤差が大きい。	お手数ですが再度学習の上、ご確認ください。	P.18~33
カウンター表示と、糸の水深色分けとが一致しない。	糸の種類により、程度の差はありますが、使用中に糸が伸びることによりカウンターの表示との間にズレを生じる場合があります。	
船べり停止位置が違う。	巻き上げのテンションや糸の伸びの影響と思われる。水面での0セットを行ってください。 また、入力可能な船べりセットは、1m~6m未満の範囲です。 0m~1m未満のセットは安全のため1mに設定しています。	P.37~38 P.40
液晶表示はするがモーターが作動しない。	バッテリーの容量が十分かどうかご確認ください。 ※モーターが低速では作動するが、高速では作動しない場合もバッテリーの容量不足が考えられます。バッテリーを充電のうえ、ご確認ください。なお、充電しても正常に作動しない時は、バッテリー寿命が考えられますので、新しいバッテリーと交換し、再度ご確認ください。 リールが低温(0℃以下)になりますと、モーターが作動しなくなる場合があります。 極寒で使用される場合、船がポイントに着くまでは電動リールをキャビンに入れてもらうか、電源ONしておいてください。 また、カウンター1m以内では安全のためモーターは作動しません。	P.16~17 P.14

《次ページに続く》

こんなとき	操作	参照
巻き上げ中にモーターが停止する。	電源コネクターのネジがしっかりと締め付けられているかご確認ください。船電源の端子や、リールやケーブルのコネクター部分がサビしていると、通電不良を生じます。サビを落としてからもう一度ご確認ください。また、バッテリー容量が不足していないか、ご確認ください。	P.16～17
電動リールから、巻いていないのに変な音がする。	不安定な電源から電動リールを守る為に、デジタルカウンター内部にコンデンサーを入れております。ご使用されています電源が不安定な状況下(ノイズ等や電圧降下)では、このコンデンサーが振動し音が聞こえる場合がありますが、リール機能には一切支障はございませんので安心してご使用ください。	
カウンターにErの文字が表示される。	セーフティ機能に基づくエラーメッセージです。「セーフティ機能」のページをご確認ください。	P.54
電源投入時に英数字が2秒間表示される。	識別のための表示で、故障ではございません。表示内容は機種ごとに異なります。	

釣りを楽しく行っていただくために、釣行前には必ず電源を入れて本製品が正常に作動することをご確認くださいませますようお願いいたします。

(1.1m 以上糸が出た状態にならないとモーターは作動しません。)

以上の確認を行っても直らない場合は、お手数ですがお買い上げになった販売店にお預けください。その際に故障内容をできるだけ詳しくお伝えください。

製品のお問い合わせ・アフターサービスのご案内

リールのメカニズムの説明には書面で表しにくいことがあります。
手紙での問い合わせにつきましては、必ずお客様の電話番号をお書き添えくださるようお願いいたします。

- 修理に出されるときには保証書と製品、ケーブルをお持ちになり、お買い上げの販売店へ現品をお預け願います。
その際には必ず、修理箇所、不具合内容を具体的に（例／ストッパーが働かない）お知らせください。

また、お近くにシマノ商品取扱店がない場合は、最寄りの営業所へお問い合わせください。

修理品は部品代のほか工賃をいただきますのでご了承ください。商品の故障等によって生じる他のタックルの破損、紛失、釣行費等は保証できません。

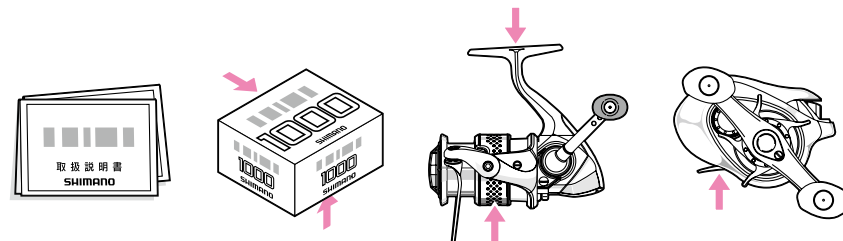
- ご自分で修理をされる場合の部品や替えスプールのお取り寄せは分解図をご覧ください、製品名・商品コードもしくは製品コード・部品番号・部品名をご指定の上、お買い上げの販売店にご注文ください。
（内部の部品に關しましては、複雑ですのでリール本体ごと修理に出されることをお勧めします。）

例／製品名 : Force Master 300DH
商品コード : 03422
製品コード : 5RG451300
部品番号 : 2
部品名 : ハンドル

- 弊社ではリール、釣竿の補修用性能部品の保有期間を、製造中止後6年間としています。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。修理対応期間を過ぎた場合は修理をお断りすることがございます。性能部品以外は製造中止後6年以内でも供給できない可能性がございます。

●商品コード / 製品コードの位置

取扱説明書・分解図・パッケージ底面部もしくは側面部に製品コードの上5ケタ及び商品コードを表示しています。又、製品には商品コードを表示しています。



株式会社シマノ全国サービスネット

株式会社シマノ 仙台営業所

〒983-0043 仙台市宮城野区萩野町2-17-10 TEL.(048)772-6662
※仙台営業所管轄のお客様のご連絡は埼玉営業所で承ります。

株式会社シマノ 埼玉営業所

〒362-0043 埼玉県上尾市西宮下3-194-1 TEL.(048)772-6662

株式会社シマノ 東京営業所

〒143-0013 東京都大田区大森南1-17-17 TEL.(03)3744-5656

株式会社シマノ 名古屋営業所

〒454-0012 名古屋市中川区尾頭橋2-6-21 TEL.(052)331-8666

株式会社シマノ 大阪営業所

〒590-8577 大阪府堺市堺区老松町3-77 TEL.(072)223-3920

株式会社シマノ 中四国営業所


〒700-0941 岡山市南区青江6-6-18 TEL.(086)264-6100

株式会社シマノ 九州営業所

〒841-0048 佐賀県鳥栖市藤木町字若桜4-6 TEL.(0942)83-1515

株式会社シマノ釣具事業部 本社：〒590-8577 大阪府堺市堺区老松町3丁77番地

●探見丸システム、商品の性能・スペック、カタログ、イベントやアフターサービスなどに関するお問い合わせ

フリーダイヤル  0120-861130 (ハローイサオ) フリーダイヤルをご利用できない方は 072-243-8538 (有料)

をご利用ください。受付時間：AM9:00～12:00・PM1:00～5:00 (土・日・祝日除く)

■シマノホームページ アドレスは <http://www.shimano.com> です。

新製品情報・釣り情報など、フィッシングライフに役立つ、シマノならではのオリジナル情報を発信しています。

また、カタログのお申し込みも受け付けています。

SHIMANO